

平成30年度展覧会

(1) 展覧会の方針

日本における写真・映像文化のセンター的役割を果たすと共に、国際的な交流の拠点となるべく、コレクションの活用と自主企画・誘致展を組み合わせながら、「質の高い写真・映像文化と出会う美術館」に相応しい展覧会を開催する。

○感動を与える

観覧者に感動を与えるとともに、専門家から一般の鑑賞者まで、満足度の高い展覧会を実施する。

○ミュージアム・コンプレックスの実現

写真美術館の3つの展示室あるいはホールを有効に組み合わせ、いつ誰がきても楽しめる展覧会のラインナップを提供する。

○全てが企画展

固定的な常設展示と異なり、収蔵品を有機的に結びつける収蔵企画展、または独自の切り口による自主企画展等を開催する。

◇収蔵展

世界でも有数の3万5千点にのぼる写真・映像コレクションを活用し、調査研究に基づいた館独自の視点で展覧会を企画・実施した。

(1) TOPコレクション展

より多くの作品をより多様なテーマで来館者に鑑賞していただくために、毎年テーマを設定して100%収蔵品で構成するコレクション展。今年度は写真美術館の年度コンセプトでもある「TOPコレクション たのしむ、まなぶ」と題し、美術館における学びをテーマに、2期にわたって「イントゥ・ザ・ピクチャーズ」「夢のかげら」を展開し、2期共同図録を出版した。

(2) 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

内藤正敏の50年を超える足跡をたどり、その世界観、生命観をとらえた「内藤正敏 異界出現」展を開催。民俗学と写真を手段とし、異界を写し出す作家のヴィジョンは深い洞察を与え、同名の図録を出版した。また「建築×写真 ここにのみ在る光」展では、当館のコレクションを中心に、写真が発明された当時から現代まで、どのような建築が写されてきたか、また現代の写真家がどのように建築を捉えてきたかを紹介した。図録は一般書籍としてmillegraphより出版した。

(3) 旬な作家のミッド・キャリア展

国内外で活躍の著しい作家のミッド・キャリア展。今年度は独自のフィールドワークを元に制作する作品群で日本国内のみならず、国際的な注目をあつめる志賀理江子ととりあげ、新作個展「ヒューマン・スプリング」を開催し、同名図録を出版した。

(4) 映像展

近年注目を集める、プロジェクション・マッピングやパブリック・ビューイングなど、「人々が一つの映像を一緒に見る」行為を支える映写機やプロジェクターの原型にあたる「マジック・ランタン」に焦

点をあてた展覧会「マジック・ランタン 光と影の映像史」を開催。気鋭のアーティスト・小金沢健人の新作を併せて紹介し、マジック・ランタンの現代性に光をあてた。図録は一般書籍として青弓社より出版した。

◇自主企画展

支援会費を中心とした自主財源を効果的に用い、多様な切り口で、話題性のある展覧会を国際動向もふまえて実施した。

(1) 国内初の大回顧展となる注目の展覧会

1963年に単身渡米し、以後アメリカのアートシーンを背景に、独自の表現様式を確立してきた杉浦邦恵の国内初となる大規模個展。本展では50年を超える作家の足跡をたどるとともに、表現の先駆性と独自の世界観を捉え、作品の魅力に迫り、同名図録を出版した。

(2) 国際展

「愛について アジアン・コンテンポラリー」は家族、セクシュアリティ、ジェンダーのあり方に焦点をあて、変わりゆくアジアの現在を、現在活躍が著しい中国、シンガポール、台湾、韓国、在日コリアン、日本の女性アーティストによって紹介し、同名図録を出版した。

(3) 新進作家展

将来の写真・映像文化を担う新進作家の発掘につとめ、毎年テーマを設定して展覧会を開催し、写真・映像文化の裾野を広げるためのシリーズ。第15回となる本展は「小さいながらもたしかなこと」をテーマに掲げ、自らの感性や考え方、アイデンティティを手がかりに、社会との関わりを意識しながら個人的な視点で作品を制作する5名の作家を紹介し、同名図録を出版した。

(4) 調査研究に基づく独自のテーマの展覧会

「写真の起源 英国」展では、当館のコレクションに加え、世界最古の写真協会であるロイヤル・フォトグラフォック・ソサエティのコレクションを有するヴィクトリア・アンド・アルバート博物館と国立科学メディア博物館のほか、大英図書館、ヒストリック・イングランド・アーカイヴ、セント・アンドリューズ大学などが所蔵する、日本初公開の初期写真を多数紹介した。調査研究に立脚し、写真発祥国の一つである英国の初期写真史の新たな側面を展覧した展覧会であり、同名図録を出版した。

(5) 恵比寿映像祭

「Tokyo Tokyo Festival」の基幹事業である恵比寿映像祭。第11回となる今回は、「トランスポジション 変わる術(すべ)」を総合テーマに、恵比寿ガーデンプレイスや近隣施設などを会場に、地域と連携しながら、展示、上映、野外展示、シンポジウム、レクチャー、ライブ・イベント等、多彩なプログラムを実現した。

◇誘致展

写真団体や企業、新聞社と協力し、外部企画・資金を導入して、展覧会にヴァリエーションをもたらした。

『光画』と新興写真 モダニズムの日本

The Magazine and the New Photography: Koga and Japanese Modernism

期間：平成30年3月6日（火）～ 5月6日（日）32日間（平成30年4月1日以降の開館日数）
会場：3階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館／読売新聞社／美術館連絡協議会
協賛：ライオン／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜／日本テレビ放送網

本展は1930年前後に日本の写真史の中で盛んとなっていた「新興写真」に注目した展覧会。「新興写真」とはドイツの新月主義（ノイエザッハリヒカイト）やシュルレアリスムなどの影響を受け、それまでのピクトリアリズム（絵画主義写真）とは異なり、カメラやレンズによる機械性を生かし、写真でしかできないような表現をめざした動向。『光画』とは1932年から1933年までわずか2年足らずしか発行されなかった写真同人雑誌。今回はこの雑誌に掲載された写真を中心に、新興写真に影響を与えた海外写真家の作品とその後の写真表現を展観した。

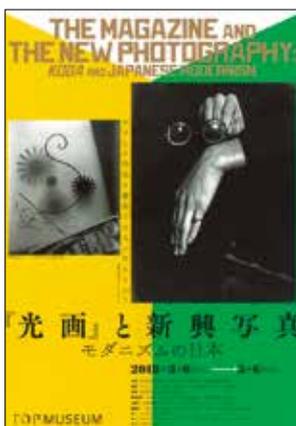
出品作家：ヴァルター・ペーターハンス ヴァルター・ファンカート イヴァ ヘッダ・ヴァルター ラースロー・モホイ＝ナジ ウンボ ヘルベルト・バイヤー リー・ミラー ベーター・ヴェラー チャールズ・シーラー ピクター・ケプラー マーガレット・パーク＝ホホワイト 青木春雄 飯田幸次郎 井深徹 大東元 岡野一 恩地孝四郎 金丸重嶺 木村専一 木村伊兵衛 窪川得三郎 小石清 河野徹 高麗清治 佐久間兵衛 佐藤虹児 佐溝勢光 島村紫陽 椎原治 田島二男 樽井芳雄 富本憲吉 中山岩太 長峰利一 名取洋之助 永田一脩 錦古里孝治 野島康三 濱谷浩 ハナヤ勘兵衛 花輪銀吾 林忠彦 平井輝七 古川成俊 堀野正雄 堀不佐夫 紅谷吉之助 松原重三 三浦義次 光墨弘 安井仲治 山川健一郎 山内光 山本悍右 矢野修二 吉川富三 吉崎一人 吉澤弘 若柳義太郎

出品点数：140点
入場者数：13,655人（平成30年3月6日～5月6日）
企画：藤村里美

展覧会図録

『『光画』と新興写真 モダニズムの日本』
『The Magazine and the New Photography: Koga and Japanese Modernism』

執筆者：谷口英理、藤村里美
編集：東京都写真美術館、国書刊行会
発行：国書刊行会



内藤正敏 異界出現

Naito Masatoshi: Another World Unveiled

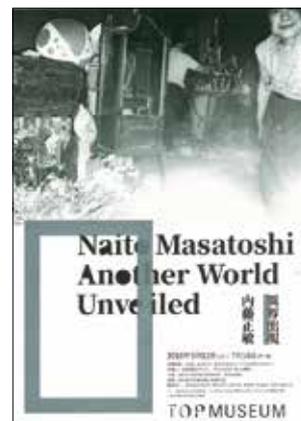
期間：平成30年5月12日（土）～7月16日（月・祝）57日間
主催：東京都 東京都写真美術館／朝日新聞社

本展は異色の写真家・内藤正敏の50年を超える軌跡をたどり紹介した。作家は1960年代に、生命の起源や宇宙の生成の姿をイメージした「SF写真」を手がけ、山形県・湯殿山麓での即身仏との出会いをきっかけに、その後80年代にかけて、主に東北地方で民間信仰の現場に取材した〈婆バクハツ!〉〈遠野物語〉など刺激的な写真シリーズを次々と発表した。また作家は自らの写真に触発された民俗学研究も手がけ、東北と江戸・東京、科学と宗教といった異質なテーマを交差させ、日本文化の隠された思想体系を発見する研究論文をこれまでに多数発表してきた。90年代以降は、そうした研究と自身の想像力を融合させ、修験道の霊山における空間思想を解説するシリーズ〈神々の異界〉を手がけている。本展では、こうした作家の多様な活動を取り上げ、その表現に通底する独自の世界観、生命観を明るみにした。

出品点数：186点
入場者数：15,921人
企画：石田哲朗

展覧会図録

『内藤正敏 異界出現』
Naito Masatoshi: Another World Unveiled
執筆者：内藤正敏、石田哲朗
編集・発行：東京都写真美術館



TOPコレクション たのしむ、まなぶ

イントゥ・ザ・ピクチャーズ

TOP Collection: Learning Into the Pictures

期間：平成30年5月12日（土）～平成30年8月5日（日）74日間
会場：3階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館
協賛：凸版印刷株式会社

毎年一つの共通テーマで、複数会期にわたって東京都写真美術館のコレクションを紹介する展覧会シリーズ「TOPコレクション」。本展は、2018年のテーマ「たのしむ、まなぶ」の第1期目として開催した。「美術館」における学びは学校や書物による学びとは異なる体験である。空間独特のさまざまな感覚を全身で感じることから学びや、作品を時代の資料として見て情報を得るだけではなく、自分の興味にそって作品の中に写っているものをじっくり見ることで、作品のこれまでとは別の一面に気づいたり、「わからなさ」をたのしんだり、ということも美術館での「まなぶ」もある。本展は、教育普及的な作品鑑賞の視点から全体を「まなざし」、「よりそい」、「ある場面」、「けはい」、「うかびあがるもの」など、計7つのセクションで構成し、当館の収蔵作品の中から古今東西の名品を紹介した。展示壁への作品キャプションの掲出を行わず、その代わりに作品に写る物をじっくり見ることのできるような問いかけの文章を掲出し、作品情報は会場入口で作品リストを配布した。

出品作家：NASA W.ユージン・スミス アンセル・アダムス アンドレ・ケルテス アンリ・カルティエ＝ブレッソン ウィリアム・エグルストン ウィリアム・クライン エリオット・アーウィット ギャリー・ウィンograd コンスタンティン・ブランクーシ ジェイコブ・リース ジョージ・S・ジンベル シンディ・シャーマン ザ・サートリアリスト（スコット・シューマン） ダイアン・アーバス ダニー・ライオン ダン・ワイナー 中平卓馬 新倉孝雄 ビル・プラント ブラッサイ プルース・デイヴィッドソン ベルト&ヒラ・ベッヒャー ヘレン・レヴィット ヘンリー・ピーチ・ロビンソン ホンマタカシ マイナー・ホワイ トリー・フリードランダー ルイジ・ギッリ ロバート・アダムス ロバート・キャパ ロバート・フランク ロバート・メイプルソープ ロベール・ドアノー 井上孝治 稲越功一 鬼海弘雄 橋口譲二 桑原甲子雄 荒木経惟 高梨豊 三木淳 小畑雄嗣 植田正治 森山大道 石元泰博 沢田教一 中山岩太 中村征夫 長野重一 田沼武能 土門拳 奈良原一高 北井一夫 北島敬三 本橋成一 名取洋之助 木村伊兵衛 林忠彦 鈴木理策
出品点数：142点
入場者数：25,129人
企画：武内厚子

展覧会図録

『TOPコレクション たのしむ、まなぶ』
TOP Collection: Learning
*2期合同図録
執筆・編集：佐伯胖、武内厚子、
石田哲朗
発行：東京都写真美術館



TOPコレクション たのしむ、まなぶ 夢のかけら

TOP Collection: Learning The Fragments of Dreams

期間：平成30年8月11日（土・祝）～11月4日（日）75日間
会場：3階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館
協賛：凸版印刷株式会社

「たのしむ、まなぶ」をテーマとするTOPコレクション展の第2期。34,000点を超える当館のコレクションの中から、見る人の好奇心や想像力をかきたてる作品を紹介した。本展は「作品」という名の夢のかけらを手がかりにして、大人と子供、さまざまな立場の人たちが見たものや感じたことを自由に語りあって、作品の見方を深めていく作品体験を目指した。美術作品の鑑賞アプローチとして近年注目される、対話鑑賞の方法を活用して、教育普及担当者の視点から作品選定と展覧会構成を行い、柔軟な視点でコレクション作品を捉え直す試みとなった。19世紀の初期写真から21世紀の現代作品まで、古今東西のすぐれた名品を8つのセクションに分けて紹介した。

出品作家：ジャック・アンリ・ラルティエグ マーティン・ムンカッチ 名取洋之助 土門拳 植田正治 林ナツミ ジュリア・マーガレット・キャメロン 井上孝治 長野重一 牛腸茂雄 桑原甲子雄 蔵真墨 アンリ・カルティエ＝ブレッソン ロバート・フランク ジョセフ・クーデルカレイ・K.メッツカー ロベール・ドアノー 山田實 荒木経惟 本城直季 渡辺義雄 ニコラス・ニクソン ナダール エリオット・アーウィット ウィリアム・H.マムラー W.ユージン・スミス 井手傳次郎 ギャリー・ウィンograd マーティン・パー 中山岩太 岩合徳光 フェリーチェ・ベアト ダイアン・アーバス 瑛九 恩地孝四郎 竹村嘉夫 坂本万七 入江泰吉 今道子 岩宮武二 篠山紀信 ハロルド・ユージン・エジャートン 石田尚志 濱谷浩 木村伊兵衛 川内倫子 川田喜久治 宮崎学 山崎博 緑川洋一
出品点数：148点
入場者数：20,251人
企画：石田哲朗

展覧会図録

『TOPコレクション たのしむ、まなぶ』
TOP Collection: Learning
*2期合同図録
執筆・編集：佐伯胖、武内厚子、石田哲朗
発行：東京都写真美術館



マジック・ランタン 光と影の映像史

The Magic Lantern: A Short History of Light and Shadow

期間：平成30年8月14日（火）～10月14日（日）55日間

会場：地下1階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館／日本経済新聞社

協賛：凸版印刷株式会社

スクリーンや壁に映像を投影する「プロジェクション」という行為は、映画の発明よりはるか以前に、映写機やプロジェクターの原型にあたる「マジック・ランタン」という装置の発明により、世界中に広がった。本展では映像の歴史を、プロジェクションの歴史という視点から見直し、さらに気鋭のアーティスト・小金沢健人の新作を紹介することで、マジック・ランタンの現代性に光を当てることを試みた。関連イベントとして、担当学芸員によるギャラリートーク、出品作家によるアーティストトーク、専門家によるレクチャーのほか、サマーナイトミュージアム期間中に「江戸写し絵」社中旗揚げ公演「納涼江戸写し絵の夕べ」を開催。さらに、出品作家である小金沢健人による展示室内でのパフォーマンスイベントもおこなった。

出品作家：小金沢健人

出品点数：作品 2点、装置・資料 151点

入場者数：15,623人

企画：遠藤みゆき

展覧会図録

『マジック・ランタン 光と影の映像史』

The Magic Lantern: A Short History of Light and Shadow

執筆者：エルキ・フータモ、草原真知子、遠藤みゆき

編集：矢野未知生

発行：株式会社青弓社



建築 × 写真 ここみに在る光

Architecture x Photography A Light Existing Only Here

期間：平成30年11月10日（土）～平成31年1月27日（日）65日間

会場：3階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館

協力：株式会社写真弘社／有限会社フォトグラファーズ・ラボラトリー

本展では東京都写真美術館のコレクションを中心として、さまざまな建築を捉えた写真を展示した。内容は2章に分け、第1章では東京都写真美術館のコレクションより、写真創成期に世界中で広まったダゲレオタイプ（銀板写真）からアントニオ・ベアトやウジェーヌ・アジェなど古き時代の街並みを残すために、そして、ベレニス・アボットやベッヒャー夫妻が新しい時代の象徴として建築を捉えた写真を紹介した。第2章では建築写真の多様性を東京都写真美術館のコレクションを中心に、11人の写真家が建築をテーマとして撮影したさまざまな作品を展示した。被写体となる建築は、アントニ・ガウディや丹下健三をはじめ、だれもが一度は耳にしたことのある著名な建築家が設計した建築から、1950年代の日本の民家や香港の九龍城砦、自然の地形を巧みに利用した中世の山岳丘上都市など、建築家の名前が残っていないものまでさまざまであった。現存しない建築や実見が難しい建築を、ダイナミックに目の当たりにできるのも、建築写真の特徴であった。それらの作品は写真家の独自の視点によって、普段は気づきにくい側面や細部をあぶり出し、建築の新たな魅力を提示した。

出品作家：ベレニス・アボット ウジェーヌ・アジェ エドゥアルド＝ドニ・バルデュス フェリーチェ・ベアト ベルト&ヒラ・ベッヒャー ジャン＝バティスト・ルイ・グロ ウォーカー・エヴァンズ ジャン＝ルイ・アンリ・ル・セック ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット 石元泰博 江崎礼二 北井一夫 柴田敏雄 瀧本幹也 奈良原一高 原直久 二川幸夫 細江英公 宮本隆司 村井修 山脇麻 渡辺義雄

出品点数：164点

入場者数：24,129人

企画：藤村里美

展覧会図録

『建築 × 写真 ここみに在る光』

執筆者：藤村里美、石田哲朗

編集：富井雄太郎

発行：millegraph



志賀理江子

ヒューマン・スプリング

SHIGA Lieko: Human Spring

期間：平成31年3月5日（火）～5月6日（月・振休）24日間（平成31年3月31日までの開館日数）

会場：2階展示室

主催：東京都 東京都写真美術館／東京新聞

協賛：株式会社ニコン／株式会社ニコンイメージングジャパン／凸版印刷株式会社

協力：株式会社カラーサイエンスラボ／石堂建設株式会社

独自のフィールドワークを元に制作する作品群で、日本国内のみならず、国際的な注目を集める写真家・志賀理江子の新作個展「ヒューマン・スプリング」を開催。2006年、作家は展覧会参加のため初めて東北を訪れた。その後2008年から宮城県に移住し、その地に暮らす人々と出会いながら作品を制作する生活のなかで、長く厳しい冬を打ち破るような東北の春に惹かれてく。変わりゆく季節から溢れ出る強烈な生のエネルギーが、同時に死を抱え込んでいることに共感した作家は、人間が絶えず多様なイメージを求め続ける理由の源をそこに見出し、深く追求していくようになる。それが人間社会とどのように関わり、繋がっているのかを知ろうとしていたのである。そして2011年3月、東日本大震災に遭い、多くの人々の命が一瞬で奪われるという壮絶な光景を目の当たりにした作家の心に、この体験が深く刻み込まれた。時空の裂け目に飛び込み、何かを探るような志賀理江子の写真表現は、自らの衝動と重なるものといえるだろう。本展覧会は、現代を生きる私たちの心の奥に潜む衝動や本能に焦点をあて、日本各地のさまざまな年代、職業の人々とともに協働し制作した新作を等身大を超えるスケールの写真インスタレーションで構成した。

出品点数：100点

入場者数：6,189人（平成31年3月31日現在）

企画：丹羽晴美

展覧会図録

『志賀理江子 ヒューマン・スプリング』

執筆者：対談収録・志賀理江子×小原真史、丹羽晴美

編集・発行：東京都写真美術館



自主企画展

写真発祥地の原風景 長崎

Geneses of Photography in Japan: Nagasaki

期間：平成30年3月6日（火）～5月6日（日）32日間（平成30年4月1日以降の開館日数）

会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／国立大学法人長崎大学／読売新聞社／美術館連絡協議会

協賛：ライオン／大日本印刷／損保ジャパン日本興亜／日本テレビ放送網／東京都写真美術館支援会員

協力：長崎県／長崎県観光連盟／長崎市／長崎歴史文化博物館

後援：オランダ王国大使館

日本の写真発祥地では、開国と同時に写真制作がはじまり、近代化の歴史は写真によって記録された。写真の普及が早ければ早いほど、その土地の写真は多くなる。海外に開かれた港町として栄えた“異域”長崎には、外国人写真師が訪れて写真を制作。一方、日本人写真師も誕生し、日本の写真文化が開花する核となった。本展は、長崎学に造詣の深い姫野順一博士（長崎外国語大学特任教授・長崎大学名誉教授）監修のもと、「明治150年」を記念するとともに長崎大学附属図書館の幕末・明治期日本の写真データベース公開20周年を記念し、同大学と共同で開催した。

出品作家：A.F.ボードウィン フェリーチェ・ベアト プロイセン東アジア遠征団写真班 ミハエル・モーザー ミルトン・ミラー ポンペ・メーデルフォールト ライムント・フォン・シュティルフリート 磯野文斎 宇宿彦衛門ら 内田九一 栄寿堂 椛島富三郎 玉村康三郎 司馬江漢 小野左右輔 松浦東溪 上野俊之丞 上野彦馬 成瀬石痴 清河武安 饒田西疇 川原慶賀 川本幸民 打橋竹雲 大島文次右衛門 薛信一・信二郎 竹下佳治 為政虎三 富重利平 堀江鉄次郎 矢次辰三 渡辺忠章 日本大学芸術学部初期写真技術復元研究プロジェクトチーム 縄屋 富嶋屋 文錦堂 本石灰町鄰華堂 大和屋 Hウェブスター&Co. クリフォード&Co. ルーチ&Co. 制作者不詳

出品作品数：304点

入場者数：11,756人（平成30年3月6日～5月6日）

企画：三井圭司

展覧会図録

『写真発祥地の原風景 長崎』

Geneses of Photography in Japan: Nagasaki

執筆者：河野茂、姫野順一、天野圭吾、三井圭司

編集：リゲル社

発行：東京都写真美術館



杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50年

SUGIURA Kunié: Aspiring Experiments

New York in 50 years

期間：平成30年7月24日（火）～9月24日（月・振休）55日間

会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協賛：東京都写真美術館支援会員

1963年20歳で単身渡米し、現在もニューヨークを拠点に作品制作を続ける杉浦邦恵（1942-）の活動を顧みる。初期から最新作品まで、杉浦の作家活動を一望する日本初の大規模個展。絵画的表現を意識しながら写真の可能性を模索し、特殊な現像プロセスや暗室技法の駆使、カンヴァスへの印画、植物、動物、人物をモチーフとしたフォトグラムなど、実験的な手法で独自の表現形式を切り開いた杉浦の軌跡を展観した。

出品点数：75点

入場者数：12,883人

企画：鈴木佳子

展覧会図録

『杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50年』

SUGIURA Kunié: Aspiring Experiments New York in 50 years

執筆者：ヴァージニア・ヘッカート、榎木野衣、鈴木佳子

編集・発行：東京都写真美術館



愛について アジアン・コンテンポラリー

I know something about love, asian contemporary photography

期間：平成30年10月2日(火)～11月25日(日) 48日間
会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞
協賛：凸版印刷株式会社／株式会社資生堂／東京都写真美術館支援会員

発展と変容の著しいアジア。現代写真・美術の世界においても、アジアに向けられる視線はますます熱くなっている。本展では家族、セクシュアリティ、ジェンダーのあり方に焦点をあて、変わりゆくアジアの現在の一面を紹介した。出展作家は、韓国、在日コリアン、台湾、日本、中国、シンガポールの女性アーティスト。国も年齢もアーティストとしてのキャリアも異なる彼女たちの作品は、アジア・コンテンポラリーとして高い評価を得ているという共通点以上に、女性の価値観が様々に変容するアジアの「今」を共有している。彼女たちの眼差しの奥底にある「愛」をテーマとして、アジアの現代社会を読み解き、再考する展覧会となった。

出品作家：金仁淑、キム・オクソン、ハウ・ルル・シュウズ、須藤絢乃、チェン・ズ、ジェラルディン・カン
出品点数：87点
入場者数：13,426人
企画：笠原美智子

展覧会図録

『愛について アジアン・コンテンポラリー』

I know something about love, asian contemporary photography
執筆：笠原美智子（公益財団法人石橋財団 プリヂェストン美術館副館長、前・東京都写真美術館事業企画課長）、小勝禮子（美術批評）、山田裕理
編集・発行：東京都写真美術館



小さいながらもたしかなこと

日本の新進作家 vol. 15

Things So Faint But Real

Contemporary Japanese Photography vol. 15

期間：平成30年12月1日(土)～平成31年1月27日(日) 47日間
会場：2階展示室

主催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館／東京新聞
助成：芸術文化振興基金
協賛：凸版印刷株式会社／東京都写真美術館支援会員

2002年より開催している「日本の新進作家」展の第15回目。「小さいながらもたしかなこと」をテーマに掲げ、自らの感性や考え方、アイデンティティやリアリティを手がかりに、社会との関わりを意識しながら個人的な視点で作品を制作する5名の作家を紹介した。現代の家族の形をプライベートかつパブリックな視点で問う森栄喜、作品制作を通して自らのアイデンティティに向き合うミヤギフトシ、川崎という地の光と影を写し出す細倉真弓、視覚や言語による認識のゆらぎを写真で表す石野郁和、人間の生のあり方をベルリンの街から作品で問い直す河合智子らの近作・最新作を展示した。

出品作家：森栄喜、ミヤギフトシ、細倉真弓、石野郁和、河合智子
出品点数：54点
入場者数：13,277人
企画：伊藤貴弘

展覧会図録

『小さいながらもたしかなこと 日本の新進作家 vol. 15』

執筆：伊藤貴弘
編集・発行：東京都写真美術館



第11回恵比寿映像祭「トランスポジション 変わる術」

Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2019:

The Art of Transposition

期間：平成31年2月8日（金）～2月24日（日）15日間

主催：東京都／東京都写真美術館・アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）／日本経済新聞社

共催：サッポロ不動産開発株式会社／公益財団法人日仏会館

後援：駐日フィリピン共和国大使館／オーストリア大使館 オーストリア文化フォーラム／駐日韓国大使館 韓国文化院／在日スイス大使館／駐日ブラジル大使館／ポランド広報文化センター／TBS／J-WAVE 81.3FM

協賛：全日本空輸株式会社／サッポロビール株式会社／東京都写真美術館支援会員

協力：アダム・ミツキエヴィチ・インスティテュート Culture.pl／びあ株式会社／ドゥービー・カンパニー株式会社／株式会社ロポット

第11回恵比寿映像祭は、「トランスポジション 変わる術」を総合テーマとして掲げ、場所や視点や文化などを異なるものに置き換えてみることをコンセプトに映像とアートの新しい創造性のあり方を考察した。今回は26カ国の国と地域より67組の作家およびゲストが出品・参加し、東京都写真美術館全フロア、恵比寿ガーデンプレイス内のザ・ガーデンルーム、センター広場や日仏会館、地域連携各所などの複合会場で、展示、上映、ライブ・イベント、シンポジウム、トークセッション、ガイドツアーなど多彩なプログラムを展開した。

展示（会場：東京都写真美術館 3階、2階、地下1階展示室および3階、地下1階ロビー）

レン・ライ／ルイズ・ボツカイ／地主麻衣子／市原えつこ／岡田裕子／デヴィッド・オライリー／ユニヴァーサル・エヴリシング／サシャ・ライヒシュタイン／ハ・シャンユ／カロリナ・ブレグワ／牧野貴／黒川良一／ミハイル・カリキス

ラウンジトーク&セッション（会場：東京都写真美術館 2階ロビー）

さわひらき、木ノ下智恵子／カロリナ・ブレグワ／ハ・シャンユ／地主麻衣子／馬場隆子、佐藤慶子（地域連携プログラム Gallery工房 親+ MuCuL）／岡田裕子、武藤香織／ミハイル・カリキス、片岡真実／市原えつこ／三宅唱、阿部一直

オフサイト展示（会場：恵比寿ガーデンプレイス センター広場）

さわひらき

展示（会場：日仏会館 ギャラリー）

三宅唱+YCAM

上映（会場：東京都写真美術館 1階ホール）

①ウロボロスーガザから始まる実験的トラベローグ（ゲスト：田浪亜中央）②演出と俳優、その身体—草野なつか《王国（あるいはその家について）》（150分版）（ゲスト：草野なつか）③いつか合う視線—ミディ・ジー《14個のりんご》（ゲスト：ミディ・ジー）④ナーヴァス・トランスレーション—革命後夜の、個人的な社会のはなし。（ゲスト：シリーン・セノ）⑤映画が生まれるとき—三宅唱《ワイルドツアー》（ゲスト：三宅唱）⑥三宅唱《ワイルドツアー》《無言日記2018》（ゲスト：三宅唱、鈴木了二）⑦ウテ・アウラント特集—フィルムという日常の運動 [16ミリフィルム上映]（ゲスト：ウテ・アウラント）⑧ダナ・ハラウェイ—生き延びるための物語り

（ゲスト：高橋さきの）⑨越境についての四編⑩ACCシネマ・ファンド特集—リヴィジョンナリー・フレーム（ゲスト：ジハ・キム、ジョン・トレス）⑪トランスポジションのアニメーション—DigiCon6 ASIA（ゲスト：山田亜樹、今津良樹、見里朝希）⑫牧野貴4K最新作《Memento Stella》+スペシャルトーク（ゲスト：牧野貴）⑬Hardcore Ambience企画「Another World」：大野松雄《タージ・マハル旅行団「旅」について》+スペシャルライブ（ゲスト：大野松雄、3RENSA [Merzbow、duenn、Nyantora、映像：金村修]）⑭赤ちゃんも参加できる上映会《キートンの探偵学入門》⑮こども映画教室シネクラブ@恵比寿映像祭 2019

シンポジウム（会場：東京都写真美術館 1階ホール）

A. トランスポジションという術をめぐって（パネリスト：岡田裕子、地主麻衣子、草野なつか）

日仏会館共催企画 シンポジウム（会場：日仏会館 ホール）

B. [日仏会館共催企画] クリス・マルケルのトランスポジション（パネリスト：港千尋、東志保、司会：篠田勝英）

ライブ・イベント（会場：ザ・ガーデンルーム）

C・D. 曾我大穂×小金沢健人 special guest スズキタカユキ ライブ・パフォーマンス「映像を追いかけて—音とイメージの夢幻サーカス」（出演：曾我大穂、小金沢健人、スズキタカユキ）

YEBIZO MEETS 地域発信プロジェクト（会場：YEBISU GARDEN CAFE、東京都写真美術館 1階スタジオ、GREENBOWL）

I. YEBISU大学 市民課～映像のシティズンシップカフェ（ゲスト：前田真二郎、津田広志） II. フェスティバルを自分の言葉で伝えよう、書くヒントを見つける90分（ゲスト：アンドリュウ・マークル） III. 東京藝術大学大学院映像研究科geidaiRAM2 連携企画 ポストドキュメンタリーをめぐって 桂英史（メディア研究）×諏訪敦彦（映画監督）（ゲスト：桂英史、諏訪敦彦） IV. YEBIZO MEETS交流サロン～みんなでアートや映像について語ろう！

YEBIZO MEETS 地域連携プログラム（会場：地域連携各所）

日仏会館／YEBISU GARDEN CINEMA／伊東建築塾／MA2 Gallery／CAGE GALLERY／Gallery 工房 親／MuCuL／NADiff a/pa/r/t/スクールデレック芸術社会学研究所／MEM／Galerie LIBRAIRIE 6／AL（企画：TRAUMARIS）／AIT[NPO法人アーツイニシアティヴトウキョウ]

※本事業はTokyo Tokyo FESTIVAL（アーツカウンシル東京・フェスティバル事業）の一環として開催した。

出品点数：計72点（展示作品30点／上映作品40点／オフサイト展示1点／ライブ作品1点）

入場者数：57,560人（地域連携プログラム含むフェスティバル総数：64,223人）
企画：岡村恵子、田坂博子、多田かおり、遠藤みゆき、清水裕、印牧雅子、堀江映予、柳生みゆき

展覧会図録

「第11回恵比寿映像祭 トランスポジション 変わる術」(公式パンフレット)
Yebisu International Festival for Art & Alternative Visions 2019:

The Art of Transposition

執筆者: 岡村恵子、田坂博子、多田かおり、木ノ下智恵子、遠藤みゆき、清水裕、ジハ・キム、山田亜樹、duenn、印牧雅子、堀江映予、柳生みゆき

編集: 東京都写真美術館、現代企画室

発行: 東京都写真美術館

写真の起源 英国

The Origin of Photography Great Britain

期間: 平成31年3月5日(火) ~ 5月6日(月・振休) 24日間(平成31年3月31日までの開館日数)

会場: 3階展示室

主催: 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館/東京新聞

協賛: 東京都写真美術館支援会員

協力: 全日本空輸株式会社

日本における写真文化のセンター的役割を担う東京都写真美術館では、毎春、初期写真に焦点を当てる展示を行っており、2019年は「写真の起源 英国」展を開催した。

写真の発明に関する研究は18世紀末から始まり、1839年に最初の技術が発表されることで写真の文化が幕を開けた。英国ではヴィクトリア文化に根ざす貴族社会において、研究が発展し、文化として広く世界へ波及した。本展は、三部構成(第一章:発明者たち、第二章:ヴィクトリア朝の文化、第三章:英国から世界へ)によって、日本人たちが憧れた英国の写真文化とその歴史の広がりを見直す展示となった。

大英図書館、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、国立科学メディア博物館、ヒストリック・イングランド・アーカイヴ、セント・アンドリューズ大学、バース王立文学・科学研究協会、日本大学芸術学部の協力のもと、多くの日本未公開作品を手がかりに、これまで日本国内で知られていなかった英国の写真文化の多彩な広がりを展覧した。

出品作家: ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット、ジョン・ハーシェル、アンナ・アトキンス、ロジャー・フェントン、ヴィクター・プラウト、ファン・モンティソン(後のスペイン王ファン3世)、フランシス・ロッキー、ジョン・アダムソン、デイヴィッド・ヒル&ロバート・アダムソン、ヘンリー・ビーチ・ロビンソン、ジェームス・ロバートソン、フェリーチェ・ベアト、フランシス・プリス、ナソー・ジョスリン、ウィリアム・バートン

出品点数: 189点

入場者数: 5,428人(平成31年3月31日現在)

企画: 三井圭司

展覧会図録

『写真の起源 英国』

執筆者: ラリー・シャープ、高橋則英、マルタ・ワイズ、セバステイアン・ドブソン、打林俊、鳥海早喜、三井圭司

編集・発行: 東京都写真美術館



清里フォトアートミュージアム収蔵作品展

原点を、永遠に。—2018—

Kiyosato Museum of Photographic Arts

Basically. Forever. —2018—

期間：平成30年3月24日（土）～ 5月13日（日）38日間（平成30年4月1日以降の開館日数）

会場：地下1階展示室

主催：清里フォトアートミュージアム

共催：東京都写真美術館

清里フォトアートミュージアム（K★MoPA）の全収蔵作品の中から、「写真家が35歳までに撮影した作品」を展示した。19世紀以降の海外の著名写真家や戦後の日本を代表する写真家、そして当館が世界の35歳以下を対象に行う公募=ヤング・ポートフォリオからの作品、計95人による409点を公開し、芸術における青年期の意義を問うもの。会期中に展示替えを行い、撮影年順の〈歴史篇〉では、青年が時代を切り拓いてきた軌跡をたどり、作家の名前をほぼアルファベット順に展示する〈作家篇〉では、一人ひとりの個性と写真の多様性に触れる展示となった。

出品点数：409点

入場者数：13,081人（平成30年3月24日～5月13日）



第43回 2018 JPS展

日本写真家協会

2018 The 43rd Exhibition of The JPS

期間：平成30年5月19日（土）～6月3日（日）14日間

会場：地下1階展示室

主催：公益社団法人日本写真家協会

共催：東京都写真美術館

後援：文化庁／東京都

昭和51（1976）年に、自由で豊かな発想で写真という魅力的なメディアをより深く知ってもらうために始った。デジタル写真の急速で広範な発展もあり、JPS展に対する関心も高まり、毎年多数の応募を記録するようになった。作品内容、技術水準も高く、写真展として高い評価を受け、今や写真家協会の活動の核のひとつとなり、写真の世界で注目されている。

出品点数：491点

入場者数：3,892人

展覧会図録

『第43回 JPS展 作品集』

発行：公益社団法人日本写真家協会



世界報道写真展2018

World Press Photo 18

期間：平成30年6月9日（土）～8月5日（日）50日間

会場：地下1階展示室

主催：世界報道写真財団／朝日新聞社

共催：東京都写真美術館

後援：オランダ王国大使館／公益社団法人日本写真協会／公益社団法人日本写真家協会／全日本写真連盟

協賛：キヤノンマーケティングジャパン株式会社／Getty Images ジャパン株式会社

協力：特定非営利活動法人 国境なき医師団日本

毎年恒例の世界報道写真展。前年に世界中で撮影、報道された写真を対象にした世界報道写真コンテストが、オランダのアムステルダムで開催され、今年は125の国と地域から4,548人のフォトグラファーが参加し、7万点を超える作品を応募した。本展では、その中から選ばれた大賞など約160点の入賞作品を紹介。今年の大賞はベネズエラの首都カラカスで、ニコラス・マドゥロ大統領に対する抗議デモ参加者が警察機動隊と衝突した際、着衣に引火し炎に包まれた様子を撮影した作品が選ばれた。世界を駆け巡ったニュースや現代社会が抱える問題、スポーツの決定的瞬間など、同じ時代を生きる人たちの、普段目にすることが少ない現実を写真から知ることのできる貴重な展覧会となった。

出品点数：約160点

入場者数：35,293人

展覧会図録

『World Press Photo 18』

編集：世界報道写真財団

発行：シュルト出版

写真新世紀展2018

New Cosmos of Photography 2018

期間：平成30年10月27日（土）～11月25日（日）26日間

会場：地下1階展示室

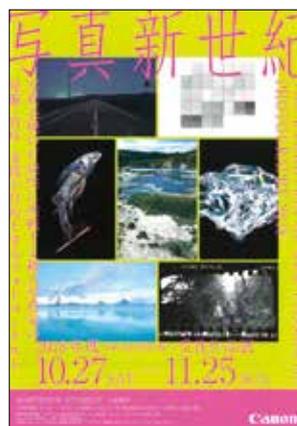
主催：キヤノン株式会社

共催：東京都写真美術館

キヤノン株式会社は、写真表現の可能性に挑戦する新しい写真家の発掘・育成・支援を目的として1991年から公募展「写真新世紀」を行っている。本展の応募人数は1,992名。出品者数は20名(優秀賞7名、佳作11名、前年度グランプリ受賞者1名)。審査員：澤田知子(アーティスト)、さわひらき(美術家)、サンドラ・フィリップス(サンフランシスコMOMA・キュレーター)、安村崇(写真家)、杉浦邦恵(写真家)、榎木野衣(美術評論家)、エミリア・ヴァン・リンデン(Unseenアーティスト・ディレクター) [敬称略]。関連イベントとして11月2日(金)「グランプリ選出公開審査会・表彰式」(会場：1階ホール)をはじめ、会期中にアーティスト・トーク、レクチャー、ポートフォリオ・レビューを開催した。

出品点数：528点

入場者数：9,143人



マイケル・ケンナ写真展

Michael Kenna A 45 Year Odyssey 1973-2018

期間 平成30年12月1日(土)～平成31年1月27日(日) 47日間
会場 地下1階展示室

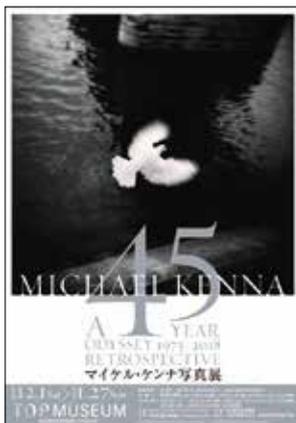
主催：RAM/ギャラリー・アートアンリミテッド
共催：東京都写真美術館
協賛：三井ホーム株式会社/カネボウコスミリオン株式会社
協力：大洋印刷株式会社/東京総合写真専門学校

世界屈指の風景写真家として知られるマイケル・ケンナの日本初の回顧展。本展では、45年に渡るケンナのキャリアの中から代表作を選びすぐって展示。長年にわたり毎年のように訪れた彼の愛する日本の写真も数多く含む展覧会となった。また、1988年からは約12年の歳月をかけてナチスドイツの強制収容所を撮影し、300点のプリントとネガをフランス政府に寄贈し芸術文化シュヴァリエ章を受章した連作「Impossible to Forget」を、特別展示として日本で初めて展覧した。また、被写体に「人物」を選んだまったく新たな試みとしてこの10年にわたり日本の古い家屋で撮影された未発表のヌード作品も、本年11月のパリでの世界初公開に続き日本初公開。すべて作家自身が暗室でプリントしたオリジナルプリントにより構成される本展は、孤高の写真家マイケル・ケンナの芸術性と社会的側面を紹介する作家活動45年の集大成に相応しい画期的レトロスペクティブとなった。

出品点数：169点
入場者数：17,545人

展覧会図録

『Michael Kenna A 45 Year Odyssey 1973-2018』
編集・発行：RAM



APAアワード2019

第47回 公益社団法人日本広告写真家協会公募展

期間：平成31年3月2日(土)～3月17日(日) 14日間
会場：地下1階展示室

主催：公益社団法人日本広告写真家協会
共催：東京都写真美術館
後援：経済産業省/文化庁/東京都
協賛：エプソン販売株式会社/オリンパス株式会社/キヤノンマーケティングジャパン株式会社/株式会社玄光社/株式会社資生堂/ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ株式会社/株式会社ニコンイメージングジャパン/株式会社ピクトリコ/富士フイルムイメージングシステムズ株式会社/株式会社フレームマン/株式会社堀内カラ
協力：法人賛助会員各社

公益社団法人日本広告写真家協会が公募した「APAアワード2019」の入賞・入選作品を一堂に展示した。広告作品部門は2017年1月1日から2018年8月31日までの期間に制作発表された印刷物を対象にした作品を、写真作品部門では、「PASSION」というテーマで一般公募された写真の中から、新たな表現へ挑戦した作品を展示した。

出品点数：広告作品部門310点 写真作品部門252点
入場者数：3,437人

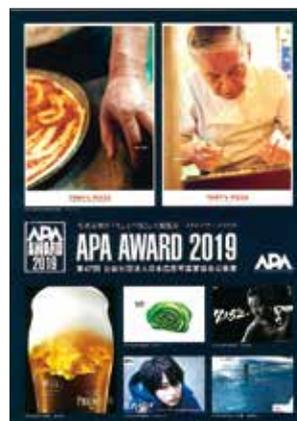
展覧会図録

『年鑑 日本の広告写真2019』
Advertising Photography in Japan 2019
監修：公益社団法人日本広告写真家協会
編集・発行：玄光社

[併設] 第十回「全国学校図工・美術写真公募展」

主催：公益社団法人日本広告写真家協会
共催：全国造形教育連盟/東京都写真美術館
後援：文部科学省/東京都教育委員会/公益財団法人教育美術振興会/公益財団法人美育文化協会/公益社団法人日本写真協会
協賛：一般社団法人日本写真文化協会/学校法人池田学園 東京服飾専門学校/オリンパス株式会社/キヤノンマーケティングジャパン株式会社/ソニーイメージングプロダクツ&ソリューションズ株式会社/株式会社ニコンイメージングジャパン/富士フイルムイメージングシステムズ株式会社/リコーイメージング株式会社
協力：法人賛助会員各社

出品点数：359点



大石芳野写真展 戦禍の記憶

Oishi Yoshino Ravages of War

期間：平成31年3月23日（土）～5月12日（日） 8日間（平成31年3月31日
までの開館日数）

会場：地下1階展示室

主催：クレヴィス

共催：東京都写真美術館

後援：公益社団法人日本写真協会／公益社団法人日本写真家協会

協賛：キヤノンマーケティングジャパン株式会社

協力：東京工芸大学／写大ギャラリー

戦争の悲惨な傷痕に今なお苦しむ声なき民に向きあい、平和の尊
さを問いつづける大石芳野（1943年-）。本展では約40年にわたり、
戦争の犠牲となった人々を取材し、いつまでも記憶される戦禍の傷
にレンズを向けてきた作品162点を展覧した。

出品点数：162点

入場者数：1,231人（平成31年3月31日現在）

展覧会図録

『大石芳野 戦禍の記憶』

Yoshino Oishi Ravages of War

編集・発行：クレヴィス



学校の児童・生徒が写真・映像メディアとの出会いを通して、豊かな体験学習が出来るように、小学校、中学校、高等学校、大学および各種学校の授業や活動、教職員の研修と連携し、スクールプログラムを実施した。

当館のスクールプログラムの特徴は、写真や映像作品の制作と作品鑑賞の両方を体験できることであり、表現と鑑賞の両面から、写真／映像の仕組みと楽しさを体験的に理解できる。

今年度は教育普及テーマで開催したTOPコレクション「たのしみ、まなぶ」展の時期に合わせて学校が多く来館し、展覧会の対話型鑑賞と暗室を利用した制作などの活動を組み合わせたプログラム体験を行ったほか、対話型作品鑑賞の教員研修などでスクールプログラムの利用があった。

実施回数：48回

参加人数：1,149人

作品鑑賞体験プログラム

A. 対話しながら作品を見てみよう

グループで一つの作品を鑑賞し、参加者それぞれが作品を見て気づいたことや感じたことを率直に話し合いながら見方を深めていく鑑賞方法。はじめにアイスブレイクとして当館オリジナルのかたちと言葉を組み合わせるゲームを行い、思ったことを自由に話すことや友達と考えが違うことの楽しさを体験し、その後展示室で作品を鑑賞する。お互いの発言を共有しつつ鑑賞を進めることで、一人では気づかなかった作品の魅力や多様な見方を知ることができるとともに、自ら能動的に鑑賞する体験がより深い学びと理解を生む。また、対話をしながら鑑賞することは、観察力、洞察力、想像力、傾聴力、発言力、語彙力などさまざまな力をはぐくむきっかけにもなり、豊かな鑑賞体験とともに、充実した言語活動を能動的に行うことができる。



暗室体験プログラム

B. フォトグラム

フォトグラム（フォトジェニック・ドローイング）はさまざまなものの影を、印画紙へ直接写し取る写真方式のこと。本プログラムでは、各自が持参した身の回りの日用品（布や紙、ガラスやプラスチックなど）を印画紙の上に並べて、暗室で現像作業を行い作品を制作する。カメラに頼らない自由な造形活動により、もののかたちの多様さを実感しながら、写真ならではの光と影による表現とモノクロ銀塩写真の暗室作業プロセスを体験できる。



C. デジタルカメラの画像から白黒写真をプリントする

各自がデジタルカメラで撮影した写真画像を事前に美術館に提出してもらい、あらかじめ作成しておいたデジタルネガシートを用いて、暗室で白黒写真現像を体験する。デジタル画像だけでなく、フィルムカメラ（モノクロネガフィルム）での現像体験も可能である。プログラムでは、1~2カットの画像を、段階露光や、フィルター調整、追い焼き、覆い焼きなどを行いながら何度もプリントを繰り返して、だんだんと理想のプリントに近づけていった。



手作りアニメーション体験プログラム

D. 驚き盤

驚き盤（フェナキスチスコープ）は、19世紀を起源とするアニメーション装置。円盤型の紙に絵や図形を少しずつ変化させながら12コマ描き、それを鏡に向かって回転させ、盤上のスリットを通して鏡を見ることで、描いた絵が動画として知覚されるという仕組みのもの。このプログラムでは、驚き盤に絵を描いて、それを鑑賞することを通してアニメーションの仕組みを楽しみながら体験的に学ぶことができる。また、どのようにしたら動いて見えるのかを自身で考えることによる能動的学習、自らが描くことによってアニメーション表現の体験的理解、仲間と互いに驚き盤を覗くことでのコミュニケーションを伴った学習という3つの学びを楽しみながらおこなうことができる。



E. コマ撮りアニメーション

専用のソフトを搭載したパソコンやウェブカメラなどの機材を用いて、テーブル上の様々なモチーフをコマ撮り撮影し、アニメーションを制作する。アニメーションならではの映像表現の仕組みを知り、動かないものに命を与えるアニメーションの魅力と楽しさを体験することができる。また、複数人がグループとなってひとつのアニメーションを作り上げる過程での、相互協力、リーダーシップ、意見の調整などさまざまな生きる力の学びをおこなうことができる。



平成30年度 スクールプログラム実績

年月日	時間	団体名	対象・学年	授業区分	人数	実施場所	プログラム内容	
1	4月12日(木)	10:00-12:00	郡山市立郡山第三中学校	3年生	修学旅行	3	当館スタジオ、3階展示室	デジタルネガによるモノクロ銀塩プリントと光画展対話型鑑賞
2	4月20日(金)	17:30-18:00	立教大学文学部	大学生	授業等	30	3階展示室	光画展ギャラリートーク
3	4月25日(水)	13:30-15:30	日本大学藝術学部 写真学科	大学生	写真基礎 演習III	14	2階、3階展示室	長崎展説明、列品解説、光画展見学
4	5月15日(火)	10:00-12:00	仙台市東仙台中学校	3年生	修学旅行	9	当館スタジオ、3階展示室	デジタルネガによるモノクロ銀塩プリントとイントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
5	5月16日(水)	10:00-11:00	宮城県七里ヶ浜町立向洋 中学校	3年生	修学旅行	4	当館スタジオ、3階展示室	デジタルネガによるモノクロ銀塩プリントとイントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
6	5月24日(木)	13:00-15:00	山口県立大学	大学生	見学旅行	8	当館スタジオ	概要説明
7	6月1日(金)	10:00-14:00	港区立御田小学校	4年生	図画工作	63	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラムとイントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
8	6月2日(土)	10:00-12:00	立教女学院小学校	美術クラブ	部活動	3	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラムとイントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
9	6月7日(金)	14:00-15:00	ちょうふ市民講座	一般	市民講座	18	3階展示室	イントゥ・ザ・ピクチャーズ展ギャラリートーク
10	6月19日(火)	13:30-15:00	日本大学藝術学部	大学生	博物館実習	16	当館スタジオ、3階展示室	バックヤード見学とイントゥ・ザ・ピクチャーズ展自由見学
11	6月21日(木)	14:00-16:30	日本大学藝術学部 写真学科 服部ゼミ	4年生	校外学習	18	2階、3階展示室	内藤正敏展とイントゥ・ザ・ピクチャーズ展ギャラリートーク
12	6月22日(金)	13:30-15:00	日本大学藝術学部	大学生	博物館実習	19	当館スタジオ、3階展示室	バックヤード見学とイントゥ・ザ・ピクチャーズ展自由見学
13	6月22日(金)	18:00-19:30	学習院女子大学	大学生	博物館実習	9	当館スタジオ、3階展示室	バックヤード見学とイントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
14	6月25日(日)	14:00-15:30	東京ビジュアルアーツ	高校生	入学予定者 ツアー	15	当館スタジオ、3階展示室	館概要説明とイントゥ・ザ・ピクチャーズ展自由見学
15	6月28日(木)	14:30-16:30	杉並区図工研究会	図工教員	教員研修	17	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラムとイントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
16	6月29日(金)	14:00-15:30	東邦大学看護学科	大学生	美術	20	当館スタジオ、3階展示室	対話型鑑賞についてレクチャーとイントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
17	7月4日(水)	10:00-12:00	品川区立浅間台小学校	5、6年生	図画工作	55	当館スタジオ、3階展示室	コマ撮りアニメーションとイントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
18	7月10日(火)	10:00-12:30	淑徳与野高校	写真部	部活動	12	当館スタジオ、3階展示室	モノクロ銀塩プリントとイントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
19	7月16日(月・祝)	11:30-13:00	高崎市立高崎経済大学附 属高等学校	写真部	部活動	13	当館スタジオ、3階展示室	イントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
20	7月18日(水)	10:00-11:45	港区立港陽小学校	6年生	図画工作	55	当館スタジオ、3階展示室	コマ撮りアニメーションとイントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
21	7月24日(火)	13:00-15:00	キッズベースキャンプ	小学1、2年生	民間学童	9	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラムとイントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
22	7月24日(火)	15:00-16:00	世田谷泉高校	高校生	クラブ活動	6	3階展示室	イントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
23	7月25日(水)	10:30-12:30	狛江市立第四中学校	美術部	部活動	13	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラムとイントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
24	7月25日(水)	14:30-16:00	品川区立第三日野小学校	美術クラブ	クラブ活動	12	3階展示室	イントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
25	7月26日(木)	13:30-16:00	練馬区図工研究会	図工教員	鑑賞研修	33	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラムとイントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
26	7月27日(金)	10:00-12:30	武蔵野市立第四中学校	美術部	部活動	10	当館スタジオ、3階展示室	コマ撮りアニメーションとイントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
27	8月2日(木)	13:30-15:00	ルカノーズこどもくらす	小学生と保護者	絵画教室	6	当館スタジオ、3階展示室	イントゥ・ザ・ピクチャーズ展対話型鑑賞
28	8月3日(金)	10:30-12:00	茨城県立高等学校 文化連盟写真部会	高校1～3年生	部活動	65	当館スタジオ、3階展示室	概要説明とイントゥ・ザ・ピクチャーズ展、世界報道展自由見学
29	8月22日(水)	13:30-17:00	歴史財団ティーチャーズ プログラム	学校教員	教員研修	18	当館スタジオ、3階展示室	スクールプログラム概要説明、フォトグラム、夢のかけら展対話型鑑賞
30	8月30日(木)	10:00-12:00	大阪芸術大学	大学生	学外研修	55	3階展示室	夢のかけら展ギャラリートーク
31	9月19日(水)	14:00-15:00	日本大学藝術学部 写真学科 西垣ゼミ	大学生	校外学習	5	2階 ラウンジ、2階、3階 展示室	コレクション概要説明、展覧会自由見学
32	9月21日(金)	10:00-12:00	杉並区立井草中学校	1年生	体験学習	5	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラムと夢のかけら展対話型鑑賞
33	9月29日(土)	10:00-12:00	都立志村学園	特別支援高等部	部活動	16	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラムと夢のかけら展対話型鑑賞
34	10月2日(火)	10:00-12:00	港区立白金の丘小学校	5年生	図画工作	65	当館スタジオ、3階展示室	コマ撮りアニメーションと夢のかけら展対話型鑑賞
35	10月4日(木)	13:00-15:00	港区立白金の丘小学校	5年生	図画工作	35	当館スタジオ、3階展示室	コマ撮りアニメーションと夢のかけら展対話型鑑賞
36	10月6日(土)	13:00-14:30	帝京科学大学	看護学科	授業	9	当館スタジオ、3階展示室	対話型鑑賞についてレクチャーと夢のかけら展対話型鑑賞
37	10月30日(火)	15:00-16:30	早稲田大学異文化交流セン ター	大学生	異文化交流	25	当館スタジオ、3階展示室	夢のかけら展対話型鑑賞
38	11月7日(水)	10:00-12:00	影路駅台芸術進学塾 (中国、北京)	高校生	団体ツアー	24	地下1階、2階展示室	愛について展、写真新世紀展通訳付き解説
39	11月10日(土)	10:00-12:00	京都造形芸術大学	通信教育部美術 科写真コース	美術館研修 a	53	2階展示室	愛について展ギャラリートーク
40	11月14日(水)	14:30-16:30	中野区図工研究会	図工教員	教員研修	14	当館スタジオ	フォトグラムとスライドによる対話型作品鑑賞
41	11月24日(土)	10:00-12:00	日本大学通信教育学部	通信教育	博物館実習	10	当館地下1階学習室	施設の概要説明、図書室見学、展示施設の見学等
42	12月6日(木)	10:00-12:00	渋谷区立立加計塚小学校	4年生	図画工作	63	当館スタジオ、3階展示室	コマ撮りアニメーションと建築×写真展対話型鑑賞
43	12月11日(火)	10:00-12:00	渋谷区立立加計塚小学校	3年生	図画工作	42	当館スタジオ、3階展示室	驚き盤と建築×写真展対話型鑑賞
44	12月13日(木)	10:00-12:00	筑波大付属駒場中学校	3年生	総合学習	12	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラムと建築×写真展対話型鑑賞
45	12月19日(水)	10:00-12:00	渋谷区立立加計塚小学校	6年生	図画工作	53	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラムと建築×写真展対話型鑑賞
46	1月9日(水)	13:30-14:30	レスリー大学(アメリカ、 マサチューセッツ州)	大学生	芸術学	19	2階展示室	日本の新進作家展展ギャラリートーク
47	1月18日(金)	15:00-17:00	江戸川区図工研究会	図工教員	鑑賞研修	12	当館スタジオ	対話型鑑賞プログラムの体験とレクチャー
48	1月23日(水)	10:00-12:00	渋谷区立立加計塚小学校	5年生	図画工作	59	当館スタジオ、3階展示室	フォトグラムと建築×写真展対話型鑑賞
合計					48回	1,149人		

パブリックプログラム

写真、映像、美術に親しみ、作品をより深く理解するための体験プログラムを年間通して実施した。当館のパブリックプログラムでは、一般を対象とした入門的な暗室ワークショップ、小学生向け、高校生向けのワークショップ、展覧会を楽しむための鑑賞プログラムなど、子供から大人、初心者から上級者までの幅広い層を対象に、それぞれの関心に応じた活動に参加する機会を提供している。さらに専門的な関心を深めていきたい人にも充実したプログラムを行った。

実施回数：29回

参加人数：533人

作品鑑賞

- 「じっくり見たり、つくったりしよう!」(小学生とその保護者対象)
TOPコレクション展に関連して作品鑑賞と暗室体験を行うプログラム。



- 「視覚障害者とつくる美術鑑賞ワークショップ」(大人対象)
目の見えない人と見える人が一緒に言葉で伝え合いながら展覧会を鑑賞するプログラム。

制作体験、レクチャー等

- 「古典技法ワークショップ」(大人対象)
専門的な興味をもつ一般を対象に、初期写真の技法が体験できる貴重な機会を提供するプログラム。
- 「モノクロ銀塩プリントワークショップ」(大人対象)
ネガフィルムやデジタル画像から暗室で本格的な写真の焼き付けを体験できるプログラム。



- 「フォトドキュメンタリー・ワークショップ」(フォトジャーナリスト志望者対象)

21世紀のフォトドキュメンタリー/フォトジャーナリズムの実践的な方法を学ぶプログラム。



- 「夏休みワークショップ」(小学生対象)
自由研究にも最適。写真や映像を楽しみながら学ぶプログラム。



- 「写真のプレゼンテーションを学ぶ」(大人対象)
人に見せる写真へのステップアップを目的に、写真で人に何かを伝えるスキルを高めるためのプログラム。
- 「高校生のための写真ワークショップ」(高校生対象)
デジタル世代の高校生にアナログな現像体験を提供するプログラム。
- 「クロマキーランド」(子供から大人まで対象)
様々な写真画像を背景にした合成写真による記念撮影を体験できる体験イベント。
- 「手作りアニメーション体験」(小学生とその保護者対象)
コマ撮りアニメーションや驚き盤を制作してアニメーションの基本を楽しみながら学ぶプログラム。

平成30年度 パブリックプログラム実績

写真、映像、美術に親しみ、作品をより深く理解するきっかけとなるようなプログラムを行っている。子供から大人まで、また初心者から上級者まで幅広い層を対象に、制作体験のプログラムや対話をしながら作品を鑑賞するプログラムなどさまざまな切り口のプログラムを提供した。

テーマ	講師	開催日	参加人数	参加費
1 古典技法ワークショップ コロディオン 湿板制作ワークショップ	田村政実(田村写真代表)	平成30年4月28日(土)	12	10,000円
2 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワーク ショップ 春期(Aコース)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワーク ショップ	平成30年6月3日(日)	7	500円
3 写真のプレゼンテーションを学ぶ 第1回	高橋瑞穂(MEM)、石田哲朗(当館 学芸員)	平成30年6月15日(金)	5	1,000円
4 モノクロ銀塩プリントワークショップ (A/Bコース)	当館スタッフ	平成30年6月16日(土)	14	銀塩ネガフィルムご使用の場合:一般4,000円 学生3,000円 中高 生2,000円 デジタル画像ご使用の場合:一般5,000円 学生4,000円 中高生 3,000円(デジタルネガフィルム代含む)
5 モノクロ銀塩プリントワークショップ (C/Dコース)	当館スタッフ	平成30年6月23日(土)	22	銀塩ネガフィルムご使用の場合:一般4,000円 学生3,000円 中高 生2,000円 デジタル画像ご使用の場合:一般5,000円 学生4,000円 中高生 3,000円(デジタルネガフィルム代含む)
6 視覚障害者をつくる美術鑑賞 ワークショップ 春期(Bコース)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワーク ショップ	平成30年6月24日(日)	6	500円
7 「TOPコレクション」展関連 クロマキールランド	当館スタッフ	平成30年7月7日(土)	78	無料
8 フォトドキュメンタリーワークショップ 2018	Q. サカマキ(写真家)、外山俊樹(朝 日新聞社映像報道部)	平成30年7月14日(土)～ 16日(月・祝)	57	20,000円 ※参加人数は3日間のべ人数
9 フォトドキュメンタリーワークショップ 一般公開レビュー	Q. サカマキ(写真家)、外山俊樹(朝 日新聞社映像報道部)	平成30年7月16日(月・祝)	22	無料
10 「TOPコレクション」展関連 じっくり 見たり、つくったりしよう!(Aコース)	当館スタッフ	平成30年7月28日(土)	16	一組800円 小学生とその保護者
11 「TOPコレクション」展関連 じっくり 見たり、つくったりしよう!(Bコース)	当館スタッフ	平成30年7月29日(日)	14	一組800円 小学生とその保護者
12 夏休みワークショップ 手作りの家族 写真 暗室でのモノクロ現像に挑戦! (A/Bコース)	当館スタッフ	平成30年8月25日(土)	24	1,000円 小学3年生-6年生とその保護者(小学生のみの参加も可)
13 夏休みワークショップ 手作りの家族 写真 暗室でのモノクロ現像に挑戦! (C/Dコース)	当館スタッフ	平成30年8月26日(日)	17	1,000円 小学3年生-6年生とその保護者(小学生のみの参加も可)
14 視覚障害者をつくる美術鑑賞 ワークショップ 夏期(Aコース)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワーク ショップ	平成30年9月2日(日)	7	500円
15 写真のプレゼンテーションを学ぶ 第2回	高橋瑞穂(MEM)、石田哲朗(当館 学芸員)	平成30年9月21日(金)	7	1,000円
16 「TOPコレクション」展関連 クロマキールランド	当館スタッフ	平成30年9月22日(土)	71	無料
17 視覚障害者をつくる美術鑑賞 ワークショップ 夏期(Bコース)	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワーク ショップ	平成30年10月4日(木)	6	500円
18 「TOPコレクション」展関連 じっくり 見たり、つくったりしよう!	当館スタッフ	平成30年10月28日(日)	6	一組800円 小学生とその保護者
19 モノクロ銀塩プリントワークショップ (A/Bコース)	当館スタッフ	平成30年11月24日(土)	20	銀塩ネガフィルムご使用の場合:一般4,000円 学生3,000円 中高 生2,000円 デジタル画像ご使用の場合:一般5,000円 学生4,000円 中高生 3,000円(デジタルネガフィルム代含む)
20 モノクロ銀塩プリントワークショップ (C/Dコース)	当館スタッフ	平成30年12月1日(土)	26	銀塩ネガフィルムご使用の場合:一般4,000円 学生3,000円 中高 生2,000円 デジタル画像ご使用の場合:一般5,000円 学生4,000円 中高生 3,000円(デジタルネガフィルム代含む)
21 視覚障害者をつくる美術鑑賞 ワークショップ 建築×写真展	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワーク ショップ	平成30年12月9日(日)	6	500円
22 視覚障害者をつくる美術鑑賞 ワークショップ 新進展	視覚障害者をつくる美術鑑賞ワーク ショップ	平成31年1月12日(土)	5	500円
23 写真のプレゼンテーションを学ぶ 第3回	高橋瑞穂(MEM)、石田哲朗(当館 学芸員)	平成31年1月25日(金)	5	1,000円
24 手作りアニメーション体験 午前コース(事前募集)	当館スタッフ	平成31年1月27日(日)	16	300円
25 手作りアニメーション体験午後コース (オープンワークショップ)	当館スタッフ	平成31年1月27日(日)	31	無料
26 モノクロ銀塩プリントワークショップ (土曜・午前/土曜・午後コース)	当館スタッフ	平成31年3月16日(土)	16	銀塩ネガフィルムご使用の場合:一般4,000円 学生3,000円 中高 生2,000円 デジタル画像ご使用の場合:一般5,000円 学生4,000円 中高生 3,000円(デジタルネガフィルム代含む)
27 高校生限定 暗室でモノクロ写真 プリントワークショップ	当館スタッフ	平成31年3月17日(日)	6	1,500円
28 モノクロ銀塩プリントワークショップ 平日コース	当館スタッフ	平成31年3月20日(水)	7	一般3,200円 学生2,400円 中高生1,500円(銀塩ネガフィルム、デ ジタル画像ともに同一料金)
29 写真のプレゼンテーションを学ぶ 第4回	石田哲朗(当館学芸員)	平成31年3月22日(金)	4	1,000円
合計 29回 533名				

講演会等

展覧会と連動して、展覧会出品作家、展覧会関係者による講演会等のプログラムを実施した。

【自主企画展・収蔵展】

展覧会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
写真発祥地の原風景 長崎	長崎をめぐる初期写真シンポジウムーオリジナルとデジタルアーカイブ	平成30年4月7日(土)	発表①：高橋剛英(日本大学芸術学部写真学科教授) 演題：初期写真技術における長崎の位置 発表②：天野圭悟(高知県立美術館学芸員) 演題：上野彦馬(上野撮影局)のスタジオと台紙の変遷について 発表③：姫野順一(長崎外国語大学外国語学部現代英語学科特任教授・長崎大学名誉教授) 演題：長崎における初期写真の意義：自・他の発見 発表④：下田研一(長崎大学学術情報部学術情報管理課学術情報管理班長) 演題：長崎大学の幕末・明治期日本古写真データベースーその変遷と派生および統合化ー 発表⑤：北本朝展(情報・システム研究機構 データサイエンス共同利用基盤施設 人文学オープンデータ共同利用センター センター長/国立情報学研究所コンテンツ科学研究系 准教授) 演題：記憶を重ねる新しい写真術「メモリーグラフ」による古写真の共創型研究 パネルディスカッション パネリストの発表を踏まえ、初期写真の活用についてオリジナルとデジタルの両面から討議。 司会：三井圭司(当館学芸員)	74
	古典技法ワークショップ：コロディオン湿版制作デモンストレーション	平成30年4月14日(土)	田村政実(田村写真代表)	48
『光画』と新興写真 モダニズムの日本	トーク『『光画』について』	平成30年4月22日(日)	飯沢耕太郎(写真評論家)	49
内藤正敏 異界出現	トーク「内藤正敏の世界」	平成30年6月8日(金)	飯沢耕太郎(写真評論家) × 松岡正剛(編集工学者)	71
杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50年	対談	平成30年6月29日(金)	赤坂憲雄(民俗学者・学習院大学教授)	68
	対談	平成30年7月27日(金)	あがた森魚(ミュージシャン・映画監督) × 杉浦邦恵(出品作家)	49
レクチャー	レクチャー	平成30年9月22日(土)	榎木野衣(美術批評家・多摩美術大学教授) × 杉浦邦恵(出品作家)	122
	レクチャー	平成30年8月4日(土)	杉浦邦恵(出品作家)	50
マジック・ランタン 光と影の映像史	平成30年度国際交流事業 エルキ・フータモ講演会	平成30年8月14日(火)	エルキ・フータモ(カリフォルニア大学ロサンゼルス校教授)	61
	アーティストトーク	平成30年8月18日(土)	小金沢健人(出品作家)	68
	「江戸写し絵」社中旗揚げ公演「納涼江戸写し絵のタベ」	平成30年8月24日(金)		222
	「江戸写し絵」社中による写し絵ワークショップ	平成30年9月1日(土)・23日(日・祝)	主催：「江戸写し絵」社中	24
マジック・ランタンをめぐるレクチャー	平成30年9月29日(土)	草原真知子(メディア文化論研究者)、松本夏樹(映像文化史家)、岩田託子(中京大学教授)	101	
愛について アジアン・コンテンポラリー	対談	平成30年10月13日(土)	小勝禮子(近現代美術史・美術批評) × 笠原美智子(石橋財団ブリヂストン美術館 副館長、前・東京都写真美術館事業企画課長)	58
	アーティストによるリレートーク *逐次通訳付(日本語)	平成30年10月4日(木)	ホウ・ルル・シュウズ × キム・オクソン	38
		平成30年10月5日(金)	チェン・ズ × ジェラルディン・カン	35
平成30年11月17日(土)	金仁淑(キム・インスク) × 須藤絢乃	63		
建築 × 写真 このみに在る光	対談	平成30年11月23日(金・祝)	藤森照信(東京都江戸東京博物館館長・建築史家) × 宮本隆司(出品作家)	68
		平成30年12月2日(日)	中村良夫(東京工業大学名誉教授) × 柴田敏雄(出品作家)	51
小さいながらもたしか なこと 日本の新進作家 vol.15	対談	平成30年12月8日(土)	石野郁和(出品作家) × 星野太(美学/表象文化論)	46
		平成30年12月14日(金)	河合智子(出品作家) × 鳴川肇(デザイナー)	22
		平成30年12月22日(土)	細倉真弓(出品作家) × 磯部涼(ライター)	53
		平成31年1月11日(金)	ミヤギフトシ(出品作家) × 岡田利規(演劇作家、小説家)	58
第11回恵比寿映像祭 トランス ポジション 変わる術	ラウンジトーク	平成31年1月19日(土)	森栄喜(出品作家) × プブ・ド・ラ・マドレーヌ(アーティスト)	60
		平成31年2月8日(金)	さわひらき(オフサイト展示出品作家)、木ノ下智恵子(キュレーター)	83
		平成31年2月9日(土)	カロリナ・ブレグワ(展示出品作家)	65
		平成31年2月11日(月・祝)	へ・シャンユ(展示出品作家)	56
		平成31年2月16日(土)	地主麻衣子(展示出品作家)	76
平成31年2月19日(火)	[地域連携プログラム Gallery工房 親+MuCuL] 馬場隆子(Gallery工房 親 主宰) / 佐藤慶子(作曲家、MuCuL代表)	42		
平成31年2月24日(日)	岡田裕子(展示出品作家)、武藤香織(東京大学医科学研究所公共政策研究分野教授)	147		

展覧会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数	
第11回恵比寿映像祭 トランスポジション 変わる術	ラウンジセッション	平成31年2月9日(土)	ミハイル・カリキス(展示出品作家)、片岡真実(森美術館副館長兼チーフ・キュレーター)	65	
		平成31年2月10日(日)	市原えつこ(展示出品作家)	137	
		平成31年2月17日(日)	三宅唱(展示・上映出品作家)×阿部一直(キュレーター)	201	
	上映関連ゲストトーク1. ウロボロスーガザから始まる実験的トラベログ		平成31年2月24日(日)	田浪亜央江(広島市立大学准教授)	73
	上映関連ゲストトーク2. 演出と俳優、その身体—草野なつか《王国(あるいはその家について)》		平成31年2月8日(金)	草野なつか(上映出品作家)	156
	上映関連ゲストトーク3. いつか合う視線—ミディ・ジー《14個のりんご》		平成31年2月20日(水)	ミディ・ジー(上映出品作家)	59
	上映関連ゲストトーク4. ナーヴース・トランスレーション—革命後夜の、個人的な社会のはなし		平成31年2月15日(金)	シリーン・セノ(上映出品作家)	60
	上映関連ゲストトーク5. 映画が生まれるとき—三宅唱《ワイルドツアー》		平成31年2月20日(水)	三宅唱(上映出品作家)	124
	上映関連ゲストトーク6. [スペシャル上映] 三宅唱《ワイルドツアー》《無言日記2018》		平成31年2月24日(日)	三宅唱(上映出品作家)、鈴木了二(建築家)	190
	上映関連ゲストトーク7. ウテ・アラウト特集—フィルムという日常の運動 [16ミリフィルム上映]		平成31年2月21日(木)・23日(土)	ウテ・アラウト(上映出品作家)	130
	上映関連ゲストトーク8. ダナ・ハラウェイ—生き延びるための物語り		平成31年2月11日(月・祝)	高橋さきの(翻訳者、研究者(生物学史/科学技術論))	190
	上映関連ゲストトーク10. ACCシネマ・ファンド特集—リヴィジョナリー・フレーム		平成31年2月19日(火)	ジハ・キム(研究者、映画キュレーター)、ジョン・トレス(出品作家)	60
	上映関連ゲストトーク11. トランスポジションのアニメーション—DigiCon6 ASIA		平成31年2月13日(水)	山田亜樹(DegiCon6 ASIAフェスティバル・ディレクター)、今津良樹(展示出品作家)、見里朝希(展示出品作家)	45
	上映関連ゲストトーク12. 牧野貴4K最新作《Memento Stella》+スペシャルトーク		平成31年2月17日(日)	牧野貴(上映出品作家)	155
	上映関連ゲストトーク13. Hardcore Ambience企画「Another World」: 大野松雄《タージ・マハル旅行団「旅」について》+スペシャルライブ		平成31年2月16日(土)	大野松雄(音響デザイナー)、3RENSA [Merzbow, duenn, Nyantora, 映像: 金村修](バンド)	185
上映関連ゲストトーク14. [スペシャル上映] 赤ちゃんも参加できる上映会《キートンの探偵学入門》		平成31年2月17日(日)		102	
上映関連ゲストトーク15. [上映関連企画・小学生向けワークショップ] こども映画教室シネクラブ@恵比寿映像祭 201		平成31年2月17日(日)		13	
シンポジウムA. トランスポジションという術をめぐって		平成31年2月10日(日)	パネリスト: 岡田裕子(展示出品作家)、地主麻衣子(展示出品作家)、草野なつか(展示出品作家) モデレーター: 岡村恵子(恵比寿映像祭ディレクター、当館学芸員)	58	
シンポジウムB. [日仏会館共催企画] クリス・マルケルのトランスポジション		平成31年2月14日(木)	パネリスト: 港千尋(多摩美術大学教授、写真家)、東志保(大阪大学大学院文学研究科助教) 司会: 篠田勝英(白百合女子大学教授、日仏会館常務理事) モデレーター: 岡村恵子	63	
曾我大穂×小金沢健人 special guest スズキタカユキ ライヴ・パフォーマンス「映像を追いかけて—音とイメージの夢幻サーカス」		平成31年2月22日(金)・23日(土)	曾我大穂(音楽家)、小金沢健人(映像アーティスト)、スズキタカユキ(服飾家)	189	
地域発信プロジェクト I YEBISU大学 市民課〜映像のシティズンシップカフェ		平成31年2月14日(木)	講師: 前田真二郎(映像作家、情報科学芸術大学院大学[IAMAS]教授) モデレーター: 津田広志(編集者)	26	
地域発信プロジェクト II フェスティバルを自分の言葉で伝えよう、書くヒントを見つける90分		平成31年2月23日(土)	アンドリュウ・マークル(ライター、編集者)	9	
地域発信プロジェクト III 東京藝術大学大学院映像研究科geidaiRAM2 連携企画 ポストドキュメンタリーをめぐって 桂英史(メディア研究)×諏訪敦彦(映画監督)		平成31年2月15日(金)	桂英史(メディア研究、東京藝術大学大学院映像研究科教授)×諏訪敦彦(映画監督、東京藝術大学大学院映像研究科教授)	96	
地域発信プロジェクト IV YEBIZO MEETS交流サロン〜みんなでアートや映像について語ろう!		平成31年2月15日(金)		35	
志賀理江子 ヒューマン・スプリング	作品撮影会	平成30年8月7日(火)		121	
	アーティスト・トーク	平成31年3月10日(日)	志賀理江子(出品作家)	235	
	ワークショップ ひとつの石	平成31年3月21日(木・祝)	志賀理江子(出品作家)	25	
写真の起源 英国	「写真の起源 英国」連続講座	平成31年3月7日(木)	セバスティアン・ドブソン(写真研究家)	25	
		平成31年3月9日(土)	ルーク・ガートラン(セント・アンドリューズ大学准教授)※逐次通訳付	41	
		平成31年3月15日(金)	鳥海早喜(日本大学芸術学部専任講師)	22	
		平成31年3月23日(土)	打林俊(東京大学総合文化研究科特別研究員)	27	
		平成31年3月29日(金)	高橋則英(日本大学芸術学部教授)	28	
	古典技法ワークショップカロタイプ・ネガ制作デモンストレーション	平成31年3月30日(土)	田村政実(田村写真代表)	52	
参加人数合計 5,025人					

【誘致展】

展覧会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
第43回2018 JPS展	講演会「写真の著作権がわかれば肖像権なんか怖くない!」	平成30年5月19日(土)	近藤美智子(弁護士・虎ノ門総合法律事務所)、佐々木広人(『アサヒカメラ』編集長)、加藤雅昭(JPS著作権担当理事、日本写真著作権協会理事)	190
	イベント「大三元ズームレンズを体験しよう!!」	平成30年5月26日(土)	熊切大輔、藤田修平(JPS会員)	32
世界報道写真展2018	「人道危機の現場で、人々に寄り添うこと～」	平成30年6月30日(土)	安田菜津紀(フォトジャーナリスト)×国境なき医師団	59
			渋谷敦志(フォトジャーナリスト)×国境なき医師団	60
写真新世紀展2018	グランプリ選出公開審査会・表彰式・受賞祝賀会	平成30年11月2日(金)	エミリア・ヴァン・リンデン(Unseen アーティスティック・ディレクター)、サンドラ・フィリップス(サンフランシスコ現代美術館(SFMOMA)名誉キュレーター)、さわひらき(美術家)、澤田知子(アーティスト)、榎木野衣(美術評論家)、杉浦邦恵(写真家)、安村崇(写真家)	449
	レクチャー「UNSEENから見た写真マーケットの展望」	平成30年11月3日(土・祝)	エミリア・ヴァン・リンデン	46
	トークショー「写真新世紀から見る写真のいま」	平成30年11月3日(土・祝)	サンドラ・フィリップス&清水 穰	63
	ポートフォリオ・レビュー	平成30年11月4日(日)	エミリア・ヴァン・リンデン(Unseen アーティスティック・ディレクター)、サンドラ・フィリップス(サンフランシスコ現代美術館(SFMOMA)名誉キュレーター)、さわひらき(美術家)、澤田知子(アーティスト)、榎木野衣(美術評論家)、杉浦邦恵(写真家)、安村崇(写真家)、清水穰(写真評論家)、東京都写真美術館 学芸員	55
マイケル・ケンナ写真展 MICHAEL KENNA A 45 Year Odyssey 1973-2018	マイケル・ケンナ講演会	平成30年12月1日(土)	マイケル・ケンナ(出品作家)	204
大石芳野写真展 戦禍の記憶	大石芳野 講演会	平成31年3月23日(土)	大石芳野(出品作家)	121
参加人数合計 1,279人				

【その他講演会等】

展覧会名・事業名	テーマ	開催日	講師・出演等	参加人数
アーカイブ研究講習会	「ビデオアートの保存：マイグレーションと目録作成」	平成30年9月21日(金)	明貴紘子(キュレーター、研究者)	19
堀内信重撮影原版 鶏卵紙プリント研究会		平成30年11月8日(月)	高橋則英(日本大学芸術学部教授)、三木麻里(写真保存修復師)	7
参加人数合計 26人				

ギャラリートーク

【収蔵展・自主企画展】

展覧会会期中には、出品作家や担当学芸員による展示解説を行った。

展覧会	開催日	講師等	参加人数
『光画』と新興写真 モダニズムの日本	平成30年4月6日(金)・20日(金)・5月4日(金・祝)	藤村里美(担当学芸員)	130
写真発祥地の原風景 長崎	平成30年4月13日(金)・27日(金)・29日(日・祝)・5月3日(木・祝)・5月5日(土・祝)	三井圭司(担当学芸員)	278
	平成30年4月20日(金)	アリス・ゴードンカー(英語解説)	33
内藤正敏 異界出現	平成30年5月25日(金)・6月8日(金)・22日(金)・7月13日(金)	石田哲朗(担当学芸員)	171
TOPコレクション たのしみ、まなぶ イントゥ・ザ・ピクチャーズ	平成30年5月18日(金)・6月1日(金)・15日(金)・7月6日(金)・20日(金)・8月3日(金)	武内厚子(担当学芸員)	221
	6月1日(金)・7月6日(金)・8月3日(金) <手話通訳付>	武内厚子(担当学芸員)、瀬戸口裕子、長谷川美紀(手話通訳者)	53
	平成30年5月31日(木)・6月28日(木)・7月26日(木) <対話型作品鑑賞会>	武内厚子(担当学芸員)	13
杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50	平成30年8月3日(金)・17日(金)・25日(土)・9月7日(金)・21日(金)	鈴木佳子(担当学芸員)	123
TOPコレクション たのしみ、まなぶ 夢のかげら	平成30年8月24日(金)・9月14日(金)・28日(金)・10月12日(金)・26日(金)	石田哲朗(担当学芸員)	117
	平成30年9月14日(金)・10月12日(金) <手話通訳付>	石田哲朗(担当学芸員)、瀬戸口裕子、長谷川美紀(手話通訳者)	33
	平成30年9月27日(木)・10月25日(木) <対話型作品鑑賞会>	石田哲朗(担当学芸員)、武内厚子(担当学芸員)	10

展覧会	開催日	講師等	参加人数
マジック・ランタン 光と影の映像史	平成30年8月17日(金)・31日(金)・9月7日(金)・21日(金)・10月5日(金)	遠藤みゆき(担当学芸員)	158
マジック・ランタン 光と影の映像史 ＜小金沢健人パフォーマンスイベント“うつし かたり ふたり”＞	平成30年9月28日(金)	小金沢健人(出品作家)、志人(語り部)	54
愛について アジアン・コンテンポラリー	平成30年10月12日(金)・26日(金)・11月9日(金)・23日(金・祝)	山田裕理(担当学芸員)	108
建築 × 写真 ここにのみ在る光	平成30年11月16日(金)・12月7日(金)・21日(金)・平成31年1月4日(金)・18日(金)	藤村里美(担当学芸員)	196
小さいながらもたしかなこと 日本の新進作家 vol.15	平成30年12月14日(金)・28日(金)・平成31年1月11日(金)・25日(金)	伊藤貴弘(担当学芸員)	94
小さいながらもたしかなこと 日本の新進作家 vol.15 森栄喜による朗読パフォーマンス「せっかちな未来/An Impatient Future」	平成30年12月1日(土)・平成31年1月18日(金)	森栄喜(出品作家)、石倉来輝(劇団ままと)	124
第11回恵比寿映像祭 トランスポジション 変わる術	平成31年2月11日(月・祝)		15
①「フェスティバルの全体像を掴もう」	平成31年2月17日(日) 手話通訳あり		13
第11回恵比寿映像祭 トランスポジション 変わる術	平成31年2月17日(日)・24日(日)		18
②「やさしい日本語で巡る」			
第11回恵比寿映像祭 トランスポジション 変わる術	平成31年2月20日(水)		15
③「異文化・視点のトランスポジションを巡るガイドツアー」			
志賀理江子 ヒューマン・スプリング	平成31年3月6日(水) 平成31年3月8日(金)・29日(金) 平成31年3月22日(金)	作品制作チーム 丹羽晴美(担当学芸員) 丹羽晴美(担当学芸員)、瀬戸口裕子、山崎薫(手話通訳者)	53 68 36
写真の起源 英国	平成31年3月8日(金)・10日(日)・15日(金)	三井圭司(担当学芸員)、セバステアーン・ドブソン(写真研究家)	67
参加人数合計 2,201人			

【誘致展】

展覧会会期中には、出品作家や担当学芸員による展示解説を行った。

展覧会	開催日	講師等	参加人数
清里フォトアートミュージアム収蔵作品展 原点を、永遠に。-2018-	平成30年4月7日(土)・21日(土)	川田喜久治(写真家) 鬼海弘雄(写真家)	126
第43回 2018 JPS 日本写真家協会展	平成30年5月20日(日)・27日(日)・31日(木)・6月2日(土)・3日(日)	日本写真家協会会員	208
写真新世紀展 2018	平成30年10月27日(土)	第一部：2018年度佳作受賞者 第二部：2018年度優秀賞受賞者と2017年度グランプリ受賞者	118
大石芳野写真展	平成31年3月30日(土)	大石芳野(作品作家)	67
参加人数合計 519人			

東京都写真美術館ボランティア

1年間を通して、パブリックプログラム、スクールプログラム、恵比寿映像祭などで活動した。

今年度は暗室での現像や対話型鑑賞のファシリテーション、障害をお持ちの方のためのプログラムでのサポートなど、ボランティア活動で求められる内容が多方面にわたった。それに対応することが出来るように、技術面と、コミュニケーション面の両面からの研修を数多く開催し、スキルアップを行った。

さらに、スクールプログラムでは鑑賞と制作が同時に進行するため、ボランティアがおのおの鑑賞側のサポートをする者と制作側のサポートをする者の二手に分かれて活動することも多く、いかに上手く連携してゆかかということが重要となった。

1登録者数

平成29年度からの更新登録者：60名
新規登録者：14名

2ボランティア活動実績

活用事業実施回数 43回

1ヶ月平均 3.5回

のべ 292人

(ただしボランティア研修会をのぞく)

年間一人あたり 3.9回

(1) パブリックプログラム活動 21回

(2) スクールプログラム活動 22回

3研修会・連絡会

(1) ボランティア研修会 12回 のべ参加者数 84人

平成30年4月15日(日) 対話型作品鑑賞研修会その3-3

講師：当館スタッフ

平成30年5月19日(土) フォローアップ研修会1 暗室技法

講師：当館スタッフ

平成30年8月5日(日) 対話型作品鑑賞研修会 その1、その2

講師：当館スタッフ

平成30年9月15日(土) 新規ボランティア研修会 第1回 Aチーム

講師：当館スタッフ

平成30年9月18日(土) 新規ボランティア研修会 第1回 Bチーム

講師：当館スタッフ

平成30年9月30日(日) 新規ボランティア研修会 第2回

講師：当館スタッフ

平成30年10月7日(日) 対話型作品鑑賞研修会 その1、その2

講師：当館スタッフ

平成31年2月15日(金) 対話型作品鑑賞研修会 その1、その2

講師：当館スタッフ

平成31年3月10日(日) 聞こえない人とのコミュニケーションにつ

いて 講師：瀬戸口裕子氏、長谷川美紀氏(手話通訳者)

(2) ボランティア自主研修会(スタジオ・暗室開放) 6回
のべ参加者数 40人

平成30年5月12日(土)、6月24日(日)、9月2日(日)、10月7日(日)、11月18日(日)、平成31年1月20日(日)

(3) ボランティア連絡会 3回 のべ参加者数 87人

平成30年5月12日(土)、9月30日(日)、3月10日(日)



博物館実習(学芸員実習)

博物館実習は、博物館法施行規則第1条に基づき、大学において修得すべき博物館に関する科目の一つとされており、登録博物館又は博物館相当施設での実習により修得するものとされる。

当館の博物館実習(学芸員実習)は大学生を対象に、将来的な学芸員の養成や美術館の仕事への意識啓発を目的として、学芸員を中心とした各部署の業務を体験的に研修してもらう機会である。

平成30年度は教育普及プログラム、展覧会企画、作品保存などの講義、対話型作品鑑賞の演習を行い、まとめとして課題発表を行った。

(1) 受入日程：平成30年8月21日(火)～9月7日(金)のうちの11日間

(2) 受入人数：11名

(3) 受入大学：成城大学、東京造形大学、女子美術大学、筑波大学、東京工芸大学、工学院大学、立教大学、成安造形大学、東北芸術工科大学、日本大学

収集の基本方針

平成元(1989)年2月3日(昭和63年度)策定

写真作品(オリジナル・プリント)を中心に、写真文化を理解する上で必要なものを、幅広く収集する。

[写真作品]

- 1.国際的な視野に立って、国内外の芸術性、文化性の高い作品を幅広く収集する。
- 2.写真の発生から現代まで、写真史のうえで重要な国内外の作家・作品を幅広く、体系的に収集する。
- 3.歴史的に評価の定まった作品を重視するとともに、各種の展覧会等で高い評価を受けた作家・作品発掘に努め、現代から未来を展望した収集を行う。
- 4.東京を表現、記録した国内外の写真作品を収集する。
- 5.日本の代表的作家については重点的に収集し、その作家の創作活動の全体像を表現し得る点数を収集する。
- 6.基本方針「写真作品」5.に基づき作品を収集した第一期重点作家(17名、五十音順)秋山庄太郎、石元泰博、植田正治、川田喜久治、木村伊兵衛、桑原甲子雄、白川義員、土田ヒロミ、東松照明、長野重一、奈良原一高、濱谷浩、林忠彦、藤原新也、細江英公、森山大道、渡辺義雄

[写真資料]

- 1.出版物(写真集、専門書、雑誌)については、写真文化に関するものを歴史的、系統的に収集する。
- 2.ネガフィルムの類については、作家・作品研究などに必要と考えられるものを収集する。
- 3.ポスターなど、写真展の付属資料(図録、チケット等)を収集する。
- 4.その他、作家や作品の関連資料、周辺資料を適宜収集する。

[写真機材類]

- 1.写真の原理と発掘の歴史、ソフトとハードの接点を理解させる展示に必要なものを収集する。
- 2.体験学習などの事業活動に必要となるものを収集する。

[映像資料]

- 1.映像文化史を展示するのに必要な映像資料を系統的に収集する。
- 2.体験型の展示を行うため、映像装置などのレプリカや模型を計画的に製作する。
- 3.日本およびアジアの映像文化史についての調査研究を進め、重要な映像資料を収集する。
- 4.各映像ジャンルの代表的な映像資料および芸術価値の高い作品を収集する。

[作品収集の目標]

- 1.長期収集計画 7万5千点以上
内訳:写真作品(国内・海外50,000点以上、写真作品以外の資料25,000点以上)

写真作品収集の新指針 平成18(2006)年11月13日策定

- 1.写真作品収集の基本方針に則り、写真美術館コレクションをより充実させる。
- 2.黎明期の写真のように、希少的価値のある作品を積極的に収集する。
- 3.写真史において重要な役割を果たした歴史的作家の作品を体系的に収集する。
- 4.1980年代以降に評価の定まった作家作品を充実させる。
- 5.日本の新進作家展で取り上げた作家や国内外の主要な賞を受賞した作家、国内外の主要美術館における主要展覧会において取り上げられた作家など、若手作家の作品を収集する。
- 6.写真美術館の展覧会(自主展、収蔵展)で取り上げた作家作品を収集する。
- 7.基本方針「写真作品」5.に基づく新規重点作家の設定
 - (1) 日本を代表する作家であること
 - (2) 国内外で評価が高いこと
 - (3) 日本の写真の一分野を代表する作家であること
 - (4) 国内外の主要美術館で作品が収集され個展が開催されていること
 - (5) 現在おおよそ40代、50代、60代の作家を目安にする
 - (6) 収集にあたっては、現在の収集予算および市場価格の高騰を鑑み、購入及び寄贈により約200点の収蔵を目指す
 - (7) 重点作家については、国内外の写真・美術の動向を鑑み随時見直しをする
- 8.写真作品収集の新指針7に基づく第二期重点作家(21人、五十音順)荒木経惟、石内都、オノデラユキ、北井一夫、北島敬三、小山穂太郎、佐藤時啓、篠山紀信、柴田敏雄、杉本博司、鈴木清、須田一政、高梨豊、田村彰英、畠山直哉、深瀬昌久、古屋誠一、宮本隆司、森村泰昌、やなぎみわ、山崎博
- 9.写真作品収集の新指針7に基づく第三期重点収集作家(14人、五十音順)、平成30(2018)年11月21日策定
江成常夫、尾仲浩二、金村修、川内倫子、鬼海弘雄、鈴木理策、瀬戸正人、鷹野隆大、長島有里枝、ホンマタカシ、松江泰治、宮崎学、本橋成一、米田知子

作品収集実績

平成30年度収集点数：675点

【内訳】国内写真作品：446点 海外写真作品：52点 映像作品資料：27点 写真資料：150点

東京都写真美術館コレクション点数：35,331点

【内訳】国内写真作品：23,239点 海外写真作品：5,747点 映像作品資料：2,470点 写真資料：3,875点

【東京都購入作品】

作家名	作品名	技法・サイズ	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
石野 郁和	《Melon Cream Soda Float》より	インクジェット・プリント	610×457	6	2018	H30年度新進作家展出品作品
河合 智子	《Berlin/2018》より	発色現像方式印画	1050×700	3	2018	H30年度新進作家展出品作品
志賀 理江子	《ヒューマン・スプリング》より	発色現像方式印画	600×900	8	2018	H30年度「志賀理江子」展関連作品
嶋田 忠	シマフクロウ、アカショウビン	インクジェット・プリント	1200×1800	14	1980-90	H31年度「嶋田忠」展出品予定作品
須藤 絢乃	《幻影》より	インクジェット・プリント	590×840	10	2013-14	H30年度「アジア・コンテンポラリー」展出品作品
瀧本 幹也	《Le Corbusier》より	インクジェット・プリントほか	1656×1104	3	2017	H30年度「建築×写真」展出品作品
内藤 正敏	《出羽三山》より ほか	銀色素漂白方式印画	443×333	40	1982-2012	H30年度「内藤正敏 異界出現」展出品作品
比嘉 康雄	《生れ島・沖縄》より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P) ほか	220×150	20	1969-77	2020年度収蔵展出品予定作品
二川 幸夫	大和・河内 四条の集落(唐招提寺近く) ほか	インクジェット・プリント	420×594	2	c.1955	H30年度「建築×写真」展出品作品
細倉 真弓	《川崎》より	発色現像方式印画	1000×735	3	2016	H30年度新進作家展出品作品
ミヤギ フトシ	《Sight Seeing/感光》より	ミクスト・メディア	508×609	2	2018	H30年度新進作家展出品作品
宮本 隆司	面縄ピンホール、《Lo Manthang》、《東方の市》、《徳之島ポートレート》	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P) ほか	404×509	35	2013	H31年度「宮本隆司」展出品予定作品
森 栄喜	《Family Regained》より	発色現像方式印画	462×580	8	2017	H30年度新進作家展出品作品
CHEN, Zhe	《Bees》より	インクジェット・プリント	1000×1200	3	2010	H30年度「アジア・コンテンポラリー」展出品作品
KANG, Geraldine	《In the Raw》より	発色現像方式印画	439×660	16	2010/2011	H30年度「アジア・コンテンポラリー」展出品作品
RICHTER, Gerhard	M. V. 6	発色現像方式印画、エナメル	100×150	1	2011	2019年度「洞窟(仮)」展出品作品
Lulu Shur-tzy, HOU	《A Trilogy on Kaohsiung Military Dependents' Villages—Episode 1: Here is where we meet (Lizhi New Village)》より	インクジェット・プリント	1400×700	5	2012-13	H30年度「アジア・コンテンポラリー」展出品作品
小金沢 健人	よび つぎ うつし	ビデオ・インスタレーション	カラー/サウンド/60分	1	2018	H30年度収蔵映像展「マジック・ランタン 光と影の映像史」展出品作品
鈴木 光	《GOD AND FATHER AND ME》《October》《安楽島》	シングルチャンネル・ビデオ	カラー/サウンド	3	2008-18	第7回恵比寿映像祭出品作品
ミヤギ フトシ	《A Few Minutes of Sight Seeing/感光の数分間》より	シングルチャンネル・ビデオ	カラー/サウンド/7分7秒	3	2018	H30年度新進作家展出品作品
日本大学芸術学部映画研究会	Nの記録	16ミリフィルム	白黒/サウンド/20分	1	1959	H31年度以降映像展および恵比寿映像祭出品予定作品
日本大学芸術学部新映画研究会	椀	16ミリフィルム	白黒/サウンド/25分	1	1961	H31年度以降映像展および恵比寿映像祭出品予定作品
LYE, Len	《A Colour Box》《Kaleidoscope》《Free Radicals》ほか	16ミリフィルム、シングルチャンネル・ビデオ (16・35ミリフィルムからデジタル変換)		8	1935-80	H30年度恵比寿映像祭出品予定
合計				196		

【東京都写真美術館購入作品】

作家名	作品名	技法・サイズ	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
柴田 敏雄	Second Schelde Bridge, Temse, Belgium 2013 ほか	インクジェット・プリント	600×900	3	2013	第2期重点収集作家 H30年年度「建築×写真」展出品作品
中山 岩太	静物 ほか	プロムオイル印画ほか	228×177	9	1920	寄託より購入に変更
William Nassau JOCELYN	Group Portrait of Japanese Comissioners (Bugyo) at Elgin Treaty negotiations, Yedo	鶏卵紙	101×140	1	1858	H30年度「写真の起源 英国」展出品作品
Charles Parker	Panorama of the Foreign Concession, Yokohama	鶏卵紙	120×840	2	1865	2019年度「日本写真開拓史2020 関東編」展出品予定作品
合計				15		

*東京都写真美術館購入作品については、委員会で購入決定後、東京都歴史文化財団から東京都に寄贈する。

【寄贈】

作家名	作品名	技法・サイズ	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
石田 喜一郎	伊豆風景	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	252×371	2	1928	所有者より寄贈
石野 郁和	〈Melon Cream Soda Float〉より	インクジェット・プリント	610×457	10	2018	H30年度新進作家展出品作品、購入時寄贈
潮田 登久子	冷蔵庫	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	122×122	1	1999	所有者ご遺族からのお申し出による寄贈
打越 庄太郎	朝乃工場	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	238×290	2	1920	所有者より寄贈
尾黒 久美	〈NOISE〉より	発色現像方式印画	429×430	1	2005	所有者ご遺族からのお申し出による寄贈
片山 真理	cannot turn the clock back	発色現像方式印画	1500×1000	4	2017	H29年度「無垢と経験の写真 日本の新進作家vol. 14」展出品作品
金丸 重嶺	マダム・フジタ ほか	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	209×157	2	1934	H29年度「光画」展出品作品 ご遺族より寄贈
河合 智子	〈Berlin/2018〉より	発色現像方式印画	1050×700	2	2018	H30年度新進作家展出品作品、購入時寄贈
北井 一夫	〈ドイツ表現派1920年代の旅〉より ほか	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	162×237	13	1979	所有者ご遺族からのお申し出による寄贈
久保 静陽	雪景の子供	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	244×301	1	1920	所有者より寄贈
久保 義種	秋	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	231×287	1	1930	所有者より寄贈
阪井 政次郎	秋の頃	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	219×263	1	1925	所有者より寄贈
澤田 知子	ID400	その他の技法		1	1998	2020年度自主企画展出品予定作品
柴田 敏雄	Vroenhoven Bridge, Riemst, Belgium 2013 ほか	インクジェット・プリント	400×600	4	2013	H30年度「建築×写真」展出品作品、購入時寄贈
嶋田 忠	アカショウビン	インクジェット・プリント	1200×900	2	1980	H31年度「嶋田忠」展出品予定作品、購入時寄贈
須藤 絢乃	〈幻影〉より	インクジェット・プリント	310×450	6	2013	H30年度「アジア・コンテンポラリー」展出品作品、購入時寄贈
瀧澤 明子	Head land ほか	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	251×379	3	2009	所有者ご遺族からのお申し出による寄贈
瀧本 幹也	〈Le Corbusier〉より	発色現像方式印画	1656×1204	4	2017	H30年度「建築×写真」展出品作品
田中 徳太郎	優美	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	580×920	1	1968	所有者ご遺族からのお申し出による寄贈
土田 ヒロミ	〈俗神〉より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	151×228	4	1971	所有者ご遺族からのお申し出による寄贈
恒成 重康	〈作業する二人〉ほか	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	332×273	93	1920	ご遺族からのお申し出による寄贈
椿本 金三郎	瓦解写孔裏風景	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	220×276	1	1925	所有者より寄贈
内藤 正敏	〈コアセルベーション〉より ほか	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	166×234	55	1962	H30年度「内藤正敏 異界出現」展出品作品、関連作品
橋本 照嵩	〈替女〉より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	167×248	6	1970	所有者ご遺族からのお申し出による寄贈
浜口 タカシ	皇太子ご成婚パレード投石事件	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	235×301	1	1959	平成29年度購入作家
原田 泉二郎	大阪 ほか	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	267×205	2	1924	所有者より寄贈
比嘉 康雄	〈生れ島・沖繩〉より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	148×220	14	1969-77	2020年度収蔵展出品予定作品、購入時寄贈14点
ひさの	〈閑寂〉より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	250×249	2	2002	所有者ご遺族からのお申し出による寄贈
福山 えみ	〈岸を見ていた〉より ほか	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	234×287	11	2016	所有者ご遺族からのお申し出による寄贈
細江 賢治	〈mini Graph 2006〉より ほか	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	52×63	11	2006	所有者ご遺族からのお申し出による寄贈
細倉 真弓	〈川崎〉より	発色現像方式印画	665×735	5	2016	H30年度新進作家展出品作品、購入時寄贈
真継 不二夫	〈小道の人々〉	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	261×227	1	1929	所有者より寄贈
ミヤギ フトン	〈Sight Seeing/感光〉より	ミクスト・メディア	508×609	3	2018	H30年度新進作家展出品予定作品、購入時寄贈
森 栄喜	〈intimacy〉より	発色現像方式印画	462×693	7	2013	H30年度新進作家展出品作品、購入時寄贈
山下 恒夫	〈もうひとつの島の時間〉より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	203×305	3	2008	所有者ご遺族からのお申し出による寄贈
CHEN, Zhe	〈Bees〉より	インクジェット・プリント	1000×1200	2	2010	H30年度「アジア・コンテンポラリー」展出品作品、購入時寄贈
Jean LAMBERT	Microgravity Off trail #10	インクジェット・プリント	280×420	1	2016	作家本人より寄贈
SUDEK, Josef	〈Svaty Vit〉より	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	285×232	16	1928	所有者ご遺族からのお申し出による寄贈
Lulu Shur-tzy, HOU	〈A Trilogy on Kaohsiung Military Dependents' Villages—Episode III: Out of place (Jianye New Village)〉より	発色現像方式印画	1400×700	5	2010-17	H30年度「アジア・コンテンポラリー」展出品作品、購入時寄贈
恒成 重康	恒成重康写真アルバム	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	135×189	34	1920-30	ご遺族からのお申し出による寄贈 アルバム 2冊
林 忠彦	シリーズ〈エジプト〉	ゼラチン・シルバー・プリント (D.O.P)	160×120	116	1960	所有者ご遺族からのお申し出による寄贈
河合 智子	On the Origin of Springs/泉の起源について	シングルチャンネル・ビデオ	カラー/サウンド/11分50秒	1	2018	H30年度新進作家展出品作品、購入時寄贈
小金沢 健人	よびつぎ うつしのためのインタビュー	シングルチャンネル・ビデオ	カラー/サウンド/9分	1	2018	H30年度収蔵映像展「マジック・ランタン 光と影の映像史」展出品作品
中島 興	《穴ボコ》《精造器》(デジタルリマスター版)	シングルチャンネル・ビデオ (16ミリフィルムからデジタル変換)	カラー/サウンド	2	1963-64	第4回恵比寿映像祭出品作品。平成31年度以降映像展出品予定作品
細倉 真弓	Dance (10 times extended EDM)	シングルチャンネル・ビデオ	カラー/サウンド/14分48秒	1	2017	H30年度新進作家展出品作品、購入時寄贈
ミヤギ フトン	〈A Few Minutes of Sight Seeing/感光の数分間〉より	シングルチャンネル・ビデオ	カラー/サウンド/7分17秒	2	2018	H30年度新進作家展出品作品、購入時寄贈
日本大学芸術学部映画研究会	《釘と靴下の対話》《プープ》	シングルチャンネル・ビデオ (16ミリフィルムからデジタル変換)	白黒/サウンド	2	1958-60	平成31年度以降映像展および恵比寿映像祭出品予定作品、作家組織より
日本大学芸術学部新映画研究会	鎖陰	シングルチャンネル・ビデオ (35ミリフィルムからデジタル変換)	白黒/サウンド/56分	1	1963	平成31年度以降映像展および恵比寿映像祭出品予定作品、作家組織より
合計				464		

【寄託】

作家名	作品名	技法・サイズ	サイズ (mm)	点数	制作年	備考
堀内信重・堀内茂	明治十年ころ 京都名所	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	274×377×40	1	c.1877	ご遺族より寄託
堀内信重	京都名所写真原板	コロディオン湿板ネガ	243×299×2.1	20	c.1876	ご遺族より寄託
中山 岩太	〈ヌード習作〉ほか	ゼラチン・シルバー・プリント(D.O.P)	160×110	56	c.1930-40	ご遺族より寄託
合計				77		

平成30年度新収蔵作品の紹介

東京都購入案件



石野郁和 〈Melon Cream Soda Float〉より 2018 インクジェット・プリント



河合智子 〈Berlin/2018〉より 2018 発色現像方式印画



志賀理江子 〈ヒューマン・スプリング〉より
《人間の春・彼には見える》 2019 発色現像方式印画



嶋田忠 〈アカショウビン〉より 1981-87 インクジェット・プリント



須藤絢乃 〈幻影〉より 2013 インクジェット・プリント



瀧本幹也 〈Le Corbusier〉より
《Couvent de la Tourette # 37》 2018 発色現像方式印画



内藤正敏 〈出羽三山の宇宙〉より
《びんずる尊と羽黒鏡 海向寺 出羽三山神社》
1984 発色現像方式印画



比嘉康雄 〈生れ島・沖縄〉より 1971 ゼラチン・シルバー・プリント



二川幸夫 〈日本の民家〉より
《高山・白川 岐阜県白川村芦倉、合掌造りの民家と墓》
c.1955 インクジェット・プリント



細倉真弓 〈川崎〉より 2016 発色現像方式印画



ミヤギトシ 〈Sight Seeing/感光〉より
《Sight Seeing/感光 #24》 2018 ミクストメディア



宮本隆司 〈東方の市〉より 《Keelung》 1986 ゼラチン・シルバー・プリント

平成30年度新収蔵作品の紹介
東京都購入案件



森栄喜〈Family Regained〉より 2017 発色現像方式印画



チェン・ズ〈蜜蜂〉《蜜蜂 #076-04》2010 インクジェット・プリント



ジェラルディン・カン〈ありのまま〉《08:33》2010 インクジェット・プリント



ゲルハルト・リヒター〈museum visit〉《MV6》2011 発色現像方式印画にエナメル



ホウ・ルル・シュウズ
〈高雄眷村三部曲 エピソードI：ここは私たちの出会う場所（勵志新村）〉
《尚久菊（シャン・ジョウジュ）と陸鏗（ルー・ドゥオ）01》2012
インクジェット・プリント



小金沢健人《よびつぎ うつし》2018 ヴィデオ・インスタレーション、60分



鈴木光 《GOD AND FATHER AND ME》 2008 シングルチャンネル・ビデオ、カラー、サウンド、36分



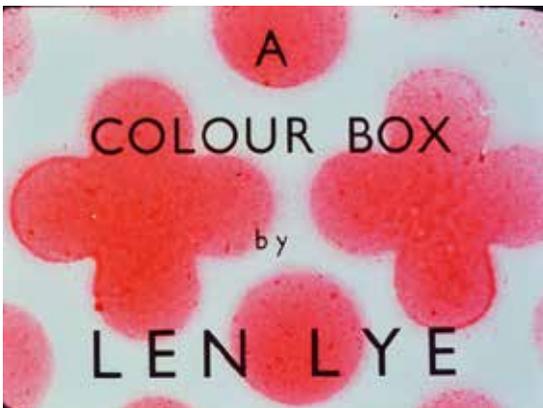
ミヤギフトシ 〈A Few Minutes of Sight Seeing/感光の数分間〉より
《A Few Minutes of Sight Seeing/感光の数分間 #24》
2018 シングルチャンネル・ビデオ、カラー、サウンド、7分7秒



日本大学芸術学部映画研究会 《Nの記録》 1959
16ミリフィルム、白黒、サウンド、20分



日本大学芸術学部映画研究会 《腕》 1961 16ミリフィルム、白黒、サウンド、25分



レン・ライ 《カラーボックス》 1935 16ミリフィルム、カラー、サウンド、4分

平成30年度新収蔵作品の紹介
東京都写真美術館購入案件



柴田敏雄 《'The Oversteek' City Bridge, Nijmegen, The Netherlands 2013》
2013 インクジェット・プリント



中山岩太 《(パイプとグラスと紙幣)》 1932 ゼラチン・シルバー・プリント



ナソー・ジョスリン 《外国奉行たち》 1858 鶏卵紙



チャールズ・パーカー 《横浜外国人居留地のパノラマ》 1865
鶏卵紙

【東京都写真美術館展覧会図録論文】

石田哲朗

「異界出現 内藤正敏論」『内藤正敏 異界出現』展図録、東京都写真美術館、2018年、pp.158-164
「大人×子供+夢のかげら」『TOPコレクションたのしむ、まなぶ』展図録、東京都写真美術館、2018年、pp.20-21

伊藤貴弘

「小さいながらもたしかなこと」『小さいながらもたしかなこと 日本の新進作家 vol. 15』展図録、東京都写真美術館、2018年、pp. 8-23

遠藤みゆき

「マジック・ランタンの両洋」『マジック・ランタン 光と影の映像史』展図録、青弓社、2018年、pp. 98-106

岡村恵子

「トランスポジション 変わる術」『第11回恵比寿映像祭 トランスポジション 変わる術』パンフレット、東京都写真美術館、2019年 pp. 12-13

鈴木佳子

「うつくしい実験—なぜ写真である必要があったか」『杉浦邦恵 うつくしい実験/ニューヨークとの50年』展図録、東京都写真美術館、2018年、pp. 122-136

武内厚子

「写真の中へ」『TOPコレクション たのしむ、まなぶ』展図録、東京都写真美術館、2018年、pp. 14-15

丹羽晴美

「ヒューマン・スプリング 志賀理江子が身体に繋ぐ人間の物語」『志賀理江子 ヒューマン・スプリング』展図録、東京都写真美術館、2019年、pp. 124-131

藤村里美

「建築写真の歴史と表現」『建築×写真—ここのみに在る光』展図録、2018年、ミルグラス、pp. 170-175

三井圭司

「写真の起源と英国文化」(「写真の起源 英国」展図録、東京都写真美術館、2019年、pp. 230-234)

山田裕理

「アイデンティティのありか —須藤絢乃作品をめぐって」『愛について アジアン・コンテンポラリー』展図録、東京都写真美術館、2018年、pp. 27-31

柳生みゆき、岡村恵子、田坂博子、多田かおり、遠藤みゆき、清水裕

『第11回恵比寿映像祭 トランスポジション 変わる術』パンフレット、東京都写真美術館、2019年

【東京都写真美術館紀要No. 19】

三井圭司

「初期写真ガラス原板による鶏卵紙プリント制作プロジェクト」高橋則英、打林俊、三木麻里、三井圭司

山口孝子

「映画の手法を用いた劣化した写真フィルムの複製および写真の画質評価」山口孝子、千陽裕美子、清野晶宏

【寄稿】

伊藤貴弘

「愛すべき世界」『here and there』vol. 13、2018年、p. 30
「池袋の虹」『まちなかパフォーマンスシリーズ A Poet: We See a Rainbow』パンフレット、フェスティバルトーキョー実行委員会、2018年
「ホンマタカシ対談連載 写真について話そう vol. 10」『IMA』vol. 26、2018年、pp. 151-154

遠藤みゆき

「マジック・ランタン 光と影の映像史展」『公明新聞』2018年8月15日、p.5

岡村恵子

「真夏のフィクション—既知との遭遇」『金氏徹平-Summer Fiction』リーフレット、アートフロントギャラリー、2018年8月
「ワルシャワ雑記」美術評論家連盟会報 19号、2018年11月09日公開

関次和子

「日本の山をモノクロームで表現」『川井靖元山からのメッセージ』、日本写真企画、2018年5月、pp.124-125
「ネイチャーフォトと日本人」『HOKKAIDO PHOTO FESTA 2018』パンフレット、2018年7月
「いざ、報道の現場へ」『TAKASHI HAMAGUCHI 1931-2018』追悼写真集、2018年11月12日
「自然への憧憬 小谷明」『Stuben 04』、ウバシプロダクション、2018年11月12日、pp.32-33
連載「平成を撮る」①「大橋英児 自動販売機のある風景」②

「田村彰英 湾岸」③「日常の中にドラマ 荒木経惟『写真論』」
④「宮崎学 鶴岡八幡宮の台湾リス」⑤「扉の向こうの外国
瀬戸正人『Living Room Tokyo』」⑥「本橋成一 築地魚河岸ひと
の町」、時事通信社より2018年12月記事配信

武内厚子

「スクールプログラムでの写真作品による対話型鑑賞について」『教育美術』、2018年11月号(917号)、公益財団法人教育美術振興会、pp.36-37

田坂博子

「ARTIST PICK UP チェン・ラン」『美術手帖』、2019年2月号、pp.166-171
「タイムベースド・メディア・アートの保存について：ニューヨーク近代美術館ワークショップに参加して」『日本写真年鑑 2018』、公益社団法人日本写真協会、2018年6月1日、pp.146-147
「写真映像の展示を考える」『ZENBI全国美術館会議機関誌』、2019年1月31日号(vol.15)、pp.8-9

丹羽晴美

‘Tokyo Photographic Art Museum, from Its Origins, Now and Future’, “Seoul Photo Festival Workshop Documentation”, SeMA, Buk-Seoul Museum, 2018, pp.17-41

【学会発表】

岡村恵子

「同時代を生きる作家と仕事をするということ」早稲田大学美術史学会総会、早稲田大学、2018年6月23日

山口孝子

「幕末期日本関係ダゲレオタイプの調査と保存に関する研究—函館市と松前町の2点の保護処置を中心に—」、三木麻里、山口孝子、荒木臣紀、高橋則英、平成30年度日本写真芸術学会年次大会、東京工芸大学、2018年6月2日
「劣化した写真フィルム複製手法の評価—映画で用いる手法の応用として—」、山口孝子、千陽裕美子、清野晶宏、一般社団法人文化財保存修復学会第40回大会、高知市文化プラザかるぽーと、2018年6月16日
「劣化したフィルムに対する映画的手法を活用したプリント複製並びに評価手法について」、清野晶宏、山口孝子、千陽裕美子、2018年度日本写真学会年次大会、千葉大学、2018年6月20日
「現存する幕末期ダゲレオタイプの調査と持続可能型文化財保存ネットワーク構築の試み」、山口孝子、三木麻里、荒木臣紀、高橋則英、2018年度日本写真学会年次大会、千葉大学、2018年6月20日

【講演会・シンポジウム等】

石田哲朗

「写真新世紀東京展2018 ポートフォリオレビュー」レビュアー、2018年11月4日、東京都写真美術館スタジオ

伊藤貴弘

「PUGMENT×小林健太×伊藤貴弘 PUGMENT作品集『“1XXX-2018-2XXX”』発刊記念 トークイベント」、銀座蔦屋書店、2018年8月26日
「here and there vol.13 HYACINTH REVOLUTION issue: 発行記念トークイベント」、POST、2018年9月9日
「城戸保『光にかえす』展トークイベント」、HAGIWARA PROJECTS、2018年9月15日
「Talk Session 小さいながらもたしかなこと 日本の新進作家 Vol.15」(伊藤貴弘×森栄喜×ミヤギフトシ×細倉真弓×河合智子)、代官山ヒルサイドフォーラム、2018年9月28日

岡村恵子

「森村泰昌『高く、赤い、中心の、行為』展関連対談企画 公開レクチャー」講師、MEMギャラリー、2018年6月9日
「アセンブリーアワー講演会 山城知佳子 あなたをくぐりぬけて—残響にこだまして生きる—」講師(聞き手)、京都精華大学、2018年7月19日

関次和子

「沈昭良トークショー」講師、ギャラリー冬青、2018年6月8日
「大橋英児写真展 トークイベント」講師、CASE TOKYO、2018年6月9日
「HOKKAIDO PHOTO FESTA 2018」ワークショップ講師、ソニープラザ札幌、2018年7月7日
「神奈川県美術展〈写真部門〉ギャラリートーク(神奈川県民ホールギャラリー)、2018年9月22日、圓井義典(写真家)との対談
「村越としや写真展 トークイベント」講師、CASE TOKYO、2018年12月1日
第21回多摩美校友会チャリティ展覧会トークショー「アーティストと美術館学芸員の関係について」講師、光村アートギャラリー、2018年12月15日

武内厚子

「東村山市教育研究会図画工作部会 鑑賞研修会」講師、東村山市立南台小学校、2018年11月7日
「第57回東京都図画工作研究大会 城南大会」、「かかわる」分科会講師、品川区立第三日野小学校、2018年11月9日
「第62回中央区立小学校連合展覧会講評会」講師、中央区立教育センター、2019年1月24日

田坂博子

トーク「映画《動いている庭》：監督澤崎賢一（監督）との対談」、池袋シネマ・ロサ、2018年5月12日

Lecture “Underground film in Japan,” Edit Film Culture! Festival, Berlin, Germany, July 8, 2018.

「オープンディスカッション、または大喜利（アーカスプロジェクト OPEN STUDIOS関連プログラム）」、アーカススタジオ、2018年11月23日

丹羽晴美

Lecture “Tokyo Photographic Art Museum, from Its Origins, Now and Future,” Seoul Photo Festival 2018, SeMA, Buk-Seoul Museum, 2018年6月9日

対談「鈴木のみ」 「MOTサテライト2018 動き出す物語」 白河二丁目町会会館、東京都現代美術館主催、2018年10月28日

「これからの美術館は何をコレクションするのか？」 クロストーク、鳥取県立博物館、2019年2月23日

三井圭司

講演会「幕末・明治の長崎を初期写真で旅する! 『出島が生きていた時代 初期写真と関連資料で旅する幕末・明治の長崎』 オランダ王国大使館、2018年3月22日

オープニング・ギャラリートーク「写真発祥地の原風景 長崎」長崎歴史文化博物館、2018年5月22日

講演会「分室 講座「和」を学ぶシリーズ第4回『幕末・明治の古写真に学ぶ』 練馬区立ふるさと文化館・分室、2019年1月27日

講演会「すみだ文化講座 初期写真に見るすみだとその周辺」墨田区立ひきふね図書館、2019年3月31日

【非常勤講師等】

関次和子

多摩美術大学「芸術学科学芸員課程科目・博物館実習R1」非常勤講師、2018年8月31日

武内厚子

跡見学園女子大学「写真論」 秋学期

田坂博子

明治学院大学文学部芸術学科「デジタルアート論2 A」 春学期

東京藝術大学「写真映像論」 2018年6月19日、6月26日

現代アート講座「アート・スクール」 2018年9月10日

丹羽晴美

学習院女子大学国際文化交流学部「国際文化交流演習」 春学期

九州産業大学大学院「写真特殊演習」 2018年11月23日、24日

藤村里美

玉川大学芸術学部メディア・デザイン学科「写真史」 2018年秋期

三井圭司

明治学院大学「写真史・写真理論研究B」 2018年後期

山口孝子

東海大学課程資格教育センター「博物館学実習I 写真技術」 春学期・秋学期集中

独立行政法人東京文化財研究所、平成30年度博物館・美術館等の保存担当学芸員研修「劣化と保存 写真」、2018年7月12日

山田裕理

明治学院大学「写真史・写真理論研究A」 春学期

【委員・審査員等】

伊藤貴弘

The 35th annual ICP Infinity Awards nominator、「IMA STEP OUT! 2018」 レビューアー、平成30年度（第69回）東京都立高等学校校定時制通信制芸術祭写真部門審査委員、日本写真芸術専門学校「NPI卒業作品展アワード」 選考員

岡村恵子

愛知県美術館美術品収集委員会・オリジナル映像部会委員、沖縄県立博物館・美術館美術品等収集委員会収集委員、第7回横浜トリエンナーレ アーティスティック・ディレクター推薦委員

関次和子

第54回神奈川県美術展委員、審査員（写真部門）

「HOKKAIDO PHOTO FESTA 2018」 ポートフォリオレビューアー、

2018年7月7日、7月8日、コンチネンタルギャラリー、札幌

高知県立美術館運営協議会委員

第1回 東京水道フォトコンテスト二次審査員

田坂博子

「日産アートアワード2020」 候補者推薦委員

平成30年度（第69回）芸術選奨推薦委員・メディア芸術部門

丹羽晴美

東川賞審査員（東川町）、鳥取県立博物館収集評価委員、公益財団法人日本広告写真家協会公募展審査委員、大東文化大学外国語学会「#Diversityフォトコンテスト」 審査員、nominator for the Prix Pictet Award、portfolio reviewer of International Singapore Photo Festival 2018、文化庁「文化関係資料アーカイブ」 選定委員

三井圭司

史跡上田城跡整備実施計画検討委員

山口孝子

日本写真学会幹事、日本写真学会画像保存研究会委員、日本写真保存センター諮問委員、国立歴史民俗博物館資料保存環境検討委員会委員、国立民族学博物館人間文化研究機構連携研究員

山田裕理

国際交流基金「平成31年度海外展助成プログラム」審査員

【インターン】

東京都写真美術館では、平成20年度からインターン制度を導入している。平成30年度も指導学芸員とともに美術館のスタッフとして、展覧会事業補助、教育普及事業業務補助等を担当し、将来の美術館活動及び写真・映像文化を支える専門的な人材育成を行った。

趙 柏鈞

担当業務：「モノクロ銀塩プリントワークショップ」ほかパブリックプログラム、スクールプログラム、教員研修会（教育普及事業運営補助）

指導学芸員：武内厚子

期間：平成30年4月1日～平成31年1月31日

前 千菜美

担当業務：「杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50年」展（展覧会事業補助）、「愛について アジアン・コンテンポラリー」展（展示作業補助）、「小さいながらもたしかなこと 日本の新進作家 vol. 15」展（イベント補助）、次年度以降展覧会準備作業補助、作品貸出業務補助

指導学芸員：鈴木佳子

期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日

築根 ひろ子

担当業務：「小さいながらもたしかなこと 日本の新進作家 vol. 15」展、「TOPコレクション たのしむ、まなぶ イントゥ・ザ・ピクチャーズ」展、「TOPコレクション たのしむ、まなぶ 夢のかけら」展（展覧会事業補助など）

指導学芸員：伊藤貴弘

期間：平成30年4月1日～平成31年3月31日

邱 于瑄

担当業務：「マジック・ランタン 光と影の映像史」展、「愛について アジアン・コンテンポラリー」展、第11回恵比寿映像祭（展覧会事業補助など）、次年度以降展覧会準備作業補助

指導学芸員：田坂博子

調査研究・普及活動 (アーカイブ研究会) ～平成31年3月31日

映像音響資料の保存管理および各種アーカイブ構築の技術と実践に係る専門機関や教育機関、研究者、技術者および関連企業等との研究および情報交流の機会として、アーカイブ研究会を、平成29年度より毎年定期的実施している。2年目となる今回は、ビデオ・アートの保存について講演とディスカッションを行った。

平成30年度アーカイブ研究講習会

「ビデオアートの保存：マイグレーションと目録作成」

平成30年9月21日

講師：明貫紘子（キュレーター、研究者）

参加者数：19名

堀内信重 撮影原板（明治9年以前）鶏卵紙プリント制作見学会

平成30年11月8日

講師：高橋則英（日本大学芸術学部教授）／ 三木麻里（写真保存修復師）

プリント制作：田村写真

参加人数：7名

調査研究・普及活動 (プリントスタディールーム)

東京都写真美術館では、研究のために直接作品等を閲覧する特別閲覧（プリントスタディールーム）制度を設けている。

平成30年度は、年間目標の「たのしむ、まなぶ美術館」のために、SNSの活用や、美術館内外でイベントを開催するなど、多角的なアプローチで展覧会と館の魅力を広報した。

1 広報誌「東京都写真美術館ニュースeyes（アイズ）」発行

(vol.95～vol.98) 季刊、発行部数：各号30,000部

〈巻頭記事・メインテーマ〉

95号「杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50年」

96号「愛について アジアン・コンテンポラリー」

97号「志賀理江子 ヒューマン・スプリング」

98号「宮本隆司 いまだ見えざるところ」



左) 95号 右) 96号

2 プレスリリース、チラシの配布およびポスター掲示

各展覧会について日英のプレスリリースを制作し、展覧会開催の2ヶ月前を目途に、マスコミ、美術館・写真・教育関係各所に配布した(約730件)。同時に美術館を中心に、A4チラシとB3ポスターの配布をおこなった(約300件)。チラシ・ポスターは館内および財団関係各所、恵比寿ガーデンプレイス周辺や「あ・ら・かるチャー文化施設運営協議会」関係施設にも配布した。

3 プレス対応

平成30年度は、展覧会、館の施設紹介、教育普及事業などに関する取材依頼に対応した。プレスには、バラエティーに富んだ作品図版の提供を心がけ、作家へのインタビュー取材も積極的に受けるなど、展覧会をわかりやすく紹介するために柔軟に対応した。今年度の特徴として、TOPコレクション展で展開した、楽しさと学びを引き出す鑑賞方法や、教育プログラムへのプレスの関心が高く、教育普及担当学芸員も多くの取材に対応した。また、広報東京都、ART NEWS TOKYO、TOKYO DIGITAL MUSEUM、Tokyo Art Navigationなど東京都・財団関係メディアへの情報提供をおこなった。

a 広報記録

展覧会名(新聞、雑誌、WEB、テレビ・ラジオ)

「夜明けまえ 知られざる日本写真開拓史 総集編」(83件、37件、51件、2件)

「『光画』と新興写真」(65件、44件、51件、1件)

「TOPコレクション たのしむ、まなぶ イントゥ・ザ・ピクチャーズ」(55件、59件、72件、1件)

「内藤正敏 異界出現」(103件、38件、55件、2件)

「杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50年」(74件、41件、55件、3件)

「TOPコレクション たのしむ、まなぶ 夢のかけら」(29件、42件、49件、1件)

「マジック・ランタン 光と影の映像史」(47件、41件、53件、3件)

「愛について アジアン・コンテンポラリー」(51件、40件、64件、0件)

「建築×建築 このみに在る光」(64件、53件、51件、0件)

「小さいながらもたしかなこと 日本の新進作家vol.15」(35件、35件、51件、0件)

「第11回恵比寿映像祭」(58件、27件、119件、3件)



「内藤正敏 異界出現」展より 日曜美術館アートシーン(平成30年7月1日放映)



掲載記事「TOPコレクション たのしむ、まなぶ 夢のかけら」展 東京新聞 生活面(平成30年9月23日)

b プレス内覧会

展覧会名(開催日、媒体数、参加人数)

「内藤正敏 異界出現」「TOPコレクション たのしむ、まなぶ イントゥ・ザ・ピクチャーズ」(平成30年5月14日、40媒体、58名)

「杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50年」(平成30年7月23日、41媒体、49名)

「マジック・ランタン 光と影の映像史」「TOPコレクション たのしむ、まなぶ 夢のかけら」(平成30年8月13日、27媒体、30名)

「愛について アジアン・コンテンポラリー」(平成30年10月1日、41社、46名)

「建築×写真 このみに在る光」展(平成30年11月12日、40媒体、44名)

「小さいながらもたしかなこと 日本の新進作家 vol.15」(平成30年12月3日、33社、38名)
 「第11回恵比寿映像祭」(平成31年2月7日、上映プログラム・プレビュー19社、37名/プレスツアー26社、63名)
 「写真の起源 英国」 「志賀理江子 ヒューマン・スプリング」(平成31年3月4日、76社、81名)



「杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50年」展プレス内覧会



「マジック・ランタン 光と影の映像史」展プレス内覧会

4 ホームページの運営

ホームページでは、最新情報やイベント情報を前面に出し、通年で最新情報の更新を頻繁に行った。館概要やコレクション方針など重要なコンテンツは、4カ国語(日本語、英語、中国語

[簡体字]、韓国語)に対応し、展覧会情報は日英に対応した。2019年1月時点で約7割がスマートフォン端末からの閲覧である。2018年4月～2019年3月末までのページビュー総数6,071,603PVで前年比110%であった。

「杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50年」展では、海外で制作する作家の紹介動画や、インタビュー音声や記事をアップするなど、作家の人となりがわかるコンテンツをアップし、作家への関心を醸成した。

「愛について アジアン・コンテンポラリー」展では、特設の公式ホームページ(aboutlove.asia)を立ち上げた。作家・作品紹介のほか、インタビュー動画、アジア関連の執筆連載、グッズ紹介などを会期中継続的におこない、Instagramとツ



topmuseum.jp トップページ



aboutlove.asia.jp トップページ

ィッターでも情報を発信した。また、展覧会音声ガイドに声優を起用し、SNSでの拡がりによって幅広い層に展覧会をアピールした。

5 SNSを生かした広報

公式ツイッターを使い、展覧会開催、イベントおよびワークショップ参加者募集などを告知し、公式ホームページ内への誘導を図った。さらにSNSの機能を利用した広報を実施した。主な事例は下記のとおり。

a 「写真発祥地の原風景 長崎」

会期中にツイートを22回おこない、初期写真の専門的な豆知識や、作品の鑑賞ポイントなどを、わかりやすく端的に発信した。

b 「TOPコレクション たのしむ、まなぶ

イントゥ・ザ・ピクチャーズ」

会期中にツイートを25回おこない、出品作家と作品のミニ情報と展示風景写真を発信した。

c 「内藤正敏 異界出現」

会期中にツイートを26回おこない、出品作家をめぐる言葉などを作品とあわせて発信した。

d 「杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50年」

会期中にツイートを29回おこない、作家インタビュー動画等のコンテンツを展開し、発信した。

e 「マジック・ランタン 光と影の映像史」

会期中にツイートを47回おこない、イベント情報と作品紹介をタイムリーに発信した。

f 「愛について アジアン・コンテンポラリー」

特設の展覧会公式サイトを立ち上げるとともにSNSで情報を発信した。詳細は前述のとおり。

g 「小さいながらもたしかなこと 日本の新進作家vol.15」

会期中に掲載したWEB記事広告の出演者自ら記事を発信したことで、900件を超える「いいね」の反応があった。

6 広告出稿

a 「写真の発祥地 長崎」

CINRA.NET記事広告(出演 スクリプカリウ落合安奈)
平成30年4月6日(金)掲載

b 「内藤正敏 異界出現」

CINRA.NET記事広告(出演 鳥居みゆき)
平成30年6月13日(水)掲載

CINRA.NETスマートフォン・ミドルバナー広告
平成30年6月15日(金)～9日間掲載

c「TOPコレクション イントゥ・ザ・ピクチャース」
朝日新聞 夕刊アートページ モノクロ 5段1/2
平成30年5月8日(火) 東京セット版 約120万部

d「杉浦邦恵 うつくしい実験 ニューヨークとの50年」
朝日新聞 夕刊アートページ モノクロ 5段1/2
平成30年7月24日(火) 東京セット版 約120万部
東武線半蔵門線直通車両 ドア横B3ポスターの掲出
平成30年8月12日(日)～1ヶ月 250枚

e「TOPコレクション たのしむ、まなぶ 夢のかげら」
CINRA.NET記事広告(出演 坂本美雨)
平成30年9月13日(木) 掲載

f「マジック・ランタン 光と影の映像史」
CINRA.NET記事広告(出演 VIDEOTAPEMUSIC)
平成30年6月13日(水) 掲載

g「愛について アジアン・コンテンポラリー」
東京新聞 特集記事広告 カラー 全10段
平成30年10月1日(月) 朝刊内特集面 484,440部
東京新聞 朝刊内 カラー 全5段
平成30年10月4日(木) 484,440部
朝日新聞 夕刊アートページ モノクロ 5段1/2
平成30年10月2日(火) 東京セット版 約120万部
CINRA.NETスマートフォン・ミドルバナー広告
平成30年10月25日(木)～7日間掲載

h「建築×写真 ここのみ在る光」
朝日新聞 夕刊アートページ モノクロ 5段1/2
平成30年11月6日(火) 東京セット版 約120万部
『日経おとなのOFF』「2019美術展特集号」(12月6日発売)
カラー 1ページ 70,000部

i「小さいながらもたしかなこと 日本の新進作家vol.15」
東京新聞 朝刊内 カラー 全5段
平成30年12月6日(木) 484,440部
東京新聞 朝刊内 カラー 全5段
平成30年12月20日(木) 484,440部
CINRA.NET記事広告(出演 夢眠ねむ)
平成30年12月21日(金) 掲載

j「年始開館広告」
朝日新聞朝刊 展覧会特集企画 モノクロ 5段1/4
平成30年12月31日(月) 1都6県エリア 約340万部
読売新聞朝刊 年末美術館企画 モノクロ 5段1/4
平成30年12月31日(月) 1都6県エリア 約480万部

k「写真の起源 英国」「志賀理江子 ヒューマン・スプリング」
朝日新聞 夕刊アートページ モノクロ 5段1/2
平成31年3月5日(火) 東京セット版 約120万部

l「東京都写真美術館イメージ広告(伊東館長×嶋田忠)」
読売新聞 朝刊 広告特集 カラー 1ページ
平成31年2月20日(水) 約560万部



「日本の新進作家vol.15」小さいながらもたしかなこと
CINRA.NET記事広告



「東京都写真美術館イメージ広告(伊東館長×嶋田忠)」

7 交通・屋外広告への掲出

a「交通広告」

すべての収蔵展・自主企画展についてJR山手線、東武・日比谷線の車内窓上広告(B3ポスター、デジタルサイネージ)を掲出した。

掲出期間：各展覧会開催日より7日間

b「恵比寿ガーデンプレイス内広告」

各展覧会の開催に合わせて、恵比寿スカイウォーク入口電飾広告(B1ポスター)と、恵比寿スカイウォーク内電飾広告(コルトン)を制作し、掲出を行った。



恵比寿スカイウォーク入口電飾広告



恵比寿スカイウォーク内電飾広告

c「懸垂幕」

東京都写真美術館の北側壁面に懸垂幕を掲出し、恵比寿ガーデンプレイス来街者へ館の存在をアピールした。

8 記者懇談会の実施

平成30年度 第1回記者懇談会
開催日：平成30年6月13日（水）
出席者数：17媒体、19名
〈主なプログラム〉

- 【第1部】東京都写真美術館 1階スタジオ
- ・平成29年度事業実績／平成30年度 事業運営方針
 - ・平成30年度展覧会／教育普及事業等 概要
 - ・教育普及事業報告
 - ・「マジック・ランタン」展の見どころ
 - ・法人支援会員について

【第2部】大会議室
伊東館長、館職員との懇談会

平成30年度 第2回記者懇談会
開催日：平成31年3月14日（木）
出席者数：18媒体、22名
〈主なプログラム〉

- 【第1部】東京都写真美術館 1階スタジオ、2階・3階作業室
- ・平成30年度外部評価／30年度事業実績
 - ・「第11回恵比寿映像祭」について
 - ・平成31年度 展覧会事業紹介
 - ・教育普及事業報告
 - ・法人支援会員について
 - ・平成30年度 新規収蔵品の紹介及び定見

【第2部】大会議室
伊東館長、館職員との懇談会



左) 第1回記者懇談会風景 右) 第1回収蔵作品実見風景

9 広報誌別冊「nya-eyes (ニアイズ)」vol.88～vol.99発行

月刊、発行部数：各号30,000部
展覧会以外の事業を紹介することを目的に、広報誌「eyes」の別冊として、猫漫画「クレムリン」（カレー沢薫、講談社）とコラボレーションした「nya-eyes」（ニアイズ）を発行した。



左) ニアイズvol.91 右) ニアイズvol.93

10 「たのしむ、まなぶ美術館」としての取り組み

1) 地域イベントの開催

「光のマジック アニメショウ」
アトレ恵比寿の主催で、「マジック・ランタン 光と影の映像史」展の開催をPRするイベントを開催した。初期映像史の成り立ちを江戸時代の古典芸能である写し絵公演を通じて紹介し、こどもから大人まで幅広い層へ展覧会の楽しさを周知した。
日時：平成30年10月8日（月・祝）14時／15時／16時
場所：アトレ恵比寿本館4Fフォンティエヌ広場
参加者数：約200名



アトレ恵比寿 イベント風景

2) たのしむ、もらう「TOPスタンプラリー」

「TOPコレクション たのしむ、まなぶ イントゥ・ザ・ピクチャーズ」展、「TOPコレクション たのしむ、まなぶ 夢のかけら」展、「マジック・ランタン 光と影の映像史」展 の3展覧会のうち、2つ以上の展覧会に来場するとTOPオリジナルグッズがもらえるスタンプラリーを開催した。2展分の鑑賞者にTOPオリジナル消しゴム、3展すべての鑑賞者に付箋をプレゼントした。

配布数
カード：合計33,048枚
消しゴム：合計6,895個
付箋：合計1,137個



左) TOPオリジナル消しゴム 右) 付箋



スタンプラリー台紙（全5種）

3) スケールメリットを生かした広報連携

a.7つの謎解きミステリーラリーの実施

サマーナイトミュージアム2018に関連し、国立・都立の7つミュージアムと美術館の最寄駅をめぐる、参加無料の体験型ラリー「7つの謎解きミステリーラリー」を東京メトロ、国立美術館と合同で実施した。

会期：7月19日（木）～8月31日（金）

参加施設

東京都写真美術館、東京都美術館、東京都庭園美術館、東京都江戸東京博物館、東京国立近代美術館、国立西洋美術館、国立新美術館



サマーナイトミュージアム パンフレット

b. 他館との広報連携

「写真の起源 英国」展について、同時期に19世紀英国に関する展覧会が都内で複数開催されたため、チラシ配布等の広報連携を実施した。また、三菱一号館美術館とは、相互割引サービスやチラシバナー等を行い、お客様の回遊を狙った。

4) 恵比寿ガーデンプレイス (YGP) との協力

YGP利用者のリピート来館のために、オフィスワーカーへの観覧割引サービスと、当館チケットをお持ちの方へのYGP内店舗でのサービス提供を行った。

5) お正月開館

1月2日、3日には「トップのお正月」として新春を祝し、各日先着100名に「東京都写真美術館オリジナルえんぴつ」を提供した。カフェではパンの福袋（30個）を、ショップでは写真集等の福袋（30個）を提供した。また、橘雅友会による雅楽演奏「とっぶ雅楽」（計4公演）を開催し、館内は多くのお客様で賑わった。

「とっぶ雅楽」 各日2公演（13時／15時）

開催日：平成31年1月2日（水）

参加者数：計301名（131／170）

開催日：平成31年1月3日（木）

参加者数：計184名（64／120）

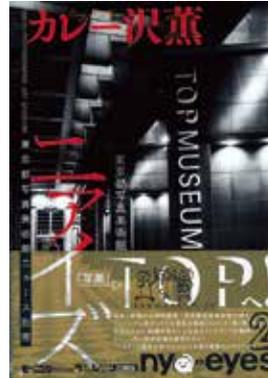


お正月開館の様子



6) 広報誌別冊「nya-eyes (ニアイズ)」単行本の制作

40～95号を収録した単行本を制作・発行した（平成31年2月22日、2500部）。美術館の幅広い活動を紹介する広報ツールとして、来館促進や新たな利用者の開拓に活用した。



「nya-eyes (ニアイズ) 2」単行本

11 インバウンド広報

訪日旅行者の来館を促進するために、インバウンド広報を強化した。主にWEBやSNS系メディアで情報を発信した。

a 「トリップ・アドバイザー」

平成30年11月20日（火）～平成31年3月20日（水）

英語、簡体字、韓国語

テキスト広告、バナー広告 保証表示回数 1,030,696回

b PR動画の制作

東京都写真美術館のPR動画を制作した。専門的・美術的な内容ではなく、インバウンドの来館者をターゲットに、初心者でも立地や館内の雰囲気を感じられるよう、また言葉の壁を越えて、見てわかる館の紹介動画となるよう制作した。平成31年3月にホームページにアップするほか、広く館広報に活用する。

c 「WeChat」

中国の有力WEBアプリ「WeChat」に展覧会情報を中国語、韓国語で紹介した。